



公益財団法人 日本ハンドボール協会 編
令和3年3月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻608号

ハンドボール

3

MAR.2021
No.608



©Yukihito Taguchi / JHA

- 第27回男子世界選手権
- 2020東京オリンピック出場12カ国(男子・女子)
- 寄稿: 体育授業におけるハンドボールの現在
- IHF便り



挑戦を続けた日々が、大舞台へと届くように。
諦めない気持ちと、熱い感動を、世界中へ届けるために。

ヤマト運輸はジャパンハンドボールオフィシャルパートナーです。



ヤマトホールディングスは、
東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナーとして、
東京2020オリンピック競技大会を応援しています。



TOKYO 2020
OLYMPIC



ヤマトホールディングス

東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー
ヤマト運輸はヤマトホールディングスのグループ会社です



プレミアム・リゾートという選択

一戸建て住宅型有料老人ホーム



メディケアサポートHABA

2017年12月伊豆高原にオープン

12/1(金)より予約申し込み開始!

☎ 0557-51-7887 (担当 土屋・はば)

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズや、社有物件も展開! 待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1丁目37-5

TEL : 03-3525-8986 / FAX : 03-5295-8188 <http://yurika-co.jp/>





あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金)

www.ana.co.jp

スポーツは 教えてくれた。

スポーツは教えてくれた。耐えることを。
スポーツは教えてくれた。力を合わせることを。
スポーツは教えてくれた。不可能を可能にすることを。
スポーツは教えてくれた。油断しないことを。
スポーツは教えてくれた。戦いから逃げないことを。
スポーツは教えてくれた。いちばんの敵は自分だということを。
スポーツは教えてくれた。人を思いやることを。
今こそ、スポーツから教わったことを実践する時。
ひとりひとりのスポーツマンシップが輝けば、
それは、暗いトンネルの出口を照らす光になる。
あなたの力で、
この未曾有の危機はきっと乗り越えられる。
そして来年、
世界中の友とともに、
美しく燃え盛る
ひとつの炎を
見つめよう。

**amino
VITAL**[®]

Eat Well, Live Well.

Aj
AJINOMOTO



【表紙の写真】
第27回男子世界選手権

CONTENTS

第27回男子世界選手権

- 07 最終順位
- 08 日本代表メンバーリスト
- 09 第27回男子世界選手権を終えて——団長 田口 隆
- 10 日本代表チーム報告書（世界選手権 2021）——監督 ダグル・シグルドソン
- 14 土井レミイ杏利選手のコメント
- 15 吉田守一選手のコメント
- 16 岩下祐太選手のコメント
- 17 日本代表世界選手権 2021（エジプト）報告書・戦評——コーチ 舍利弗 学
- 25 PHOTO GALLERY
- 28 男子世界選手権対戦履歴
- 29 2021エジプト男子世界選手権帯同メディカル報告
——ドクター 沖本信和 トレーナー 飯田純一郎 事柴壮武
- 33 2020東京オリンピック出場12カ国（男子・女子）
- 34 寄稿：体育授業におけるハンドボールの現在
——日本体育大学大学院 体育科学研究科 博士後期課程 奥村拓朗
- 36 I H F 便り——機関誌編集委員 小林弘樹
- 37 2020年度第3回理事会・2020年度全国理事長会

がんばれハンドボール 20万人会「サポート会員」1月入会・継続会員

【神奈川】山本克己 【新潟】遠藤正伸 【京都】山岡玉輝、廣瀬佳代

次号は4月号（No. 609）を予定しております（4月1日発行予定）。

多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。

大同特殊鋼の素材は、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。
私たちはこれからも、素材の力で新たな価値創造に貢献していきます。

DAIDO STEEL GROUP
Beyond the Special



外からは見えませんが、骨のある会社です。

 **大同特殊鋼**



©Yukihiro Taguchi / JHA

第27回男子世界選手権

開催国：エジプト

会場：Cairo Stadium Sports Hall (カイロ) - メイン会場

予選ラウンド、メインラウンド、決勝トーナメント

New Capital Sports Hall (カイロ)

予選ラウンド、メインラウンド

Borg Al Arab Sports Hall (アレクサンドリア)

予選ラウンド

Dr Hassan Moustafa Sports Hall (ギザ)

予選ラウンド、メインラウンド

日程：2021年1月13日(水)～1月31日(日)

最終順位

優勝：デンマーク

5位：ハンガリー

9位：スロベニア

13位：ポーランド

17位：ベラルーシ

21位：バーレーン

25位：チュニジア

29位：モロッコ

2位：スウェーデン

6位：ノルウェー

10位：ポルトガル

14位：ロシア連盟

18位：ブラジル

22位：アルジェリア

26位：オーストリア

30位：アンゴラ

3位：スペイン

7位：エジプト

11位：アルゼンチン

15位：クロアチア

19位：日本

23位：北マケドニア

27位：チリ

31位：韓国

4位：フランス

8位：カタール

12位：ドイツ

16位：スイス

20位：アイスランド

24位：ウルグアイ

28位：DR コンゴ

32位：カーボベルデ

第27回男子世界選手権

男子日本代表チーム 第27回 男子世界選手権 メンバーリスト

JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター

期日：令和3年1月13日(水)～1月31日(日)
場所：エジプト(カイロ、アレクサンドリア、ギザ)

役職	名前	フリガナ	所属	
デレゲーションリーダー	田 口 隆	タ グ チ タ カ シ	公益財団法人日本ハンドボール協会	
ヘッドコーチ	DAGUR SIGURDSSON	ダ グ ル シ グ ル ド ソ ン	公益財団法人日本ハンドボール協会	
コーチ	舎 利 弗 学	ト ド ロ キ マ ナ ブ	公益財団法人日本ハンドボール協会	
GK コーチ	ANTONI PARECKI	ア ン ト ニ パ レ ッ キ	公益財団法人日本ハンドボール協会	
GK コーチ	北 林 健 治	キ タ バ ヤ シ ケ ン ジ	公益財団法人日本ハンドボール協会	都城工業高等学校
ドクター	沖 本 信 和	オ キ モ ト ノ ブ カ ズ	公益財団法人日本ハンドボール協会	沖本クリニック
トレーナー	飯 田 純 一 郎	イ イ ダ ジ ユ ン イ チ ロ ウ	公益財団法人日本ハンドボール協会	J・フロントライン
トレーナー	事 柴 壮 武	コ ト シ バ ウ ム	公益財団法人日本ハンドボール協会	広島大学
アナリスト	吉 村 晃	ヨ シ ム ラ ア キ ラ	公益財団法人日本ハンドボール協会	豊田合成
チーム広報	田 口 有 史	タ グ チ ユ キ ヒ ト	公益財団法人日本ハンドボール協会	T A G P H O T O 企画

ポジション	背番号	名前	フリガナ	所属	生年月日	身長	出身校
LW	10	杉 岡 尚 樹	ス ギ オ カ ナ オ キ	トヨタ車体	1994.04.18	177	中央大学
GK	12	岩 下 祐 太	イ ワ シ タ ユ ウ タ	トヨタ紡織九州	1991.06.21	183	早稲田大学
PV	13	笠 原 謙 哉	カ サ ハ ラ ケ ン ヤ	トヨタ車体	1988.05.15	197	東海大学
CB	14	北 詰 明 未	キ タ ツ メ ア ス ミ	トヨタ車体	1996.10.22	186	中央大学
LB	15	部井久アダム勇樹	ハイグ アダム ユウキ	ジークスター東京	1999.04.21	194	博多高校 (中央大学在学中)
LB	18	成 田 幸 平	ナ リ タ コ ウ ヘ イ	湧永製薬	1989.06.15	191	大阪体育大学
RB	19	徳 田 新 之 介	ト ク ダ シ ン ノ ス ケ	豊田合成	1995.12.06	178	筑波大学
RB	20	渡 部 仁	ワ タ ナ ベ ジ ン	トヨタ車体	1990.01.17	183	日本大学
LW	21	土井レミイ杏利	ドイレミイアンリ	大崎電気	1989.09.28	181	日本体育大学
GK	22	坂 井 幹	サ カ イ モ ト キ	豊田合成	1995.11.10	191	筑波大学
RW	25	元 木 博 紀	モ ト キ ヒ ロ キ	大崎電気	1992.02.14	182	日本体育大学
PV	27	玉 川 裕 康	タ マ カ ワ ヒ ロ ヤ ス	大崎電気	1995.04.27	197	国士舘大学
LB	31	吉 野 樹	ヨ シ ノ タ ツ キ	トヨタ車体	1994.07.13	182	明治大学
CB	33	東 江 雄 斗	ア ガ リ エ ユ ウ ト	大同特殊鋼	1993.07.06	183	早稲田大学
RW	36	出 村 直 嗣	デ ム ラ ナ オ ツ グ	豊田合成	1988.04.14	178	筑波大学
CB	38	水 町 孝 太 郎	ミ ズ マ チ コ ウ タ ロ ウ	豊田合成	1995.03.13	183	日本大学
GK	39	中 村 匠	ナ カ ム ラ タ ク ミ	豊田合成	1996.08.02	188	福岡大学
PV	40	高 野 颯 太	タ カ ノ ソ ウ タ	筑波大学	1998.08.19	193	浦和学院高校
RB	41	徳 田 廉 之 介	ト ク ダ レ ン ノ ス ケ	S P R Tarnów	1998.05.15	180	岩国工業高校 (筑波大学在学中)
PV	43	吉 田 守 一	ヨ シ ダ シ ユ イ チ	S P R Tarnów	2001.03.26	190	那賀高校 (筑波大学在学中)

第27回男子世界選手権を終えて

団長 田口 隆

はじめに、第27回男子世界選手権への彗星 JAPAN（男子日本代表）の大会派遣にあたり、多大なるご理解・ご支援いただきましたスタッフ・選手の所属やご家族の皆様をはじめ、全国の多くの方々からご声援いただきましたこと心より御礼申し上げます。

この大会は世界中に感染拡大する新型コロナウイルス感染症に対して、いかに安心・安全を担保して大会運営が実施されるかも、IOC 及び他競技の関係者からも大変注目された大会でありました。日本ハンドボール協会（JHA）としましても国際ハンドボール連盟（IHF）から公表された「新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」をもとに、IHF 及びエジプト政府関係者との意見交換を行い、その内容を選手所属の方々と共に共有させていただくという過程を経て、派遣の準備を進めていきました。12月中旬から実施した国内での強化合宿においても、感染症対策にも留意しながら調整を行いました。

1月2日に日本を立ち、ドバイを経由し、カイロに到着したのは現地時間の1月3日午前10時過ぎでした。私たちはこの時点から、『バブル』の中に入ることになりました。今大会は、「バブルの中に大会関係者すべてが入り、外部とは接触しない。PCR 検査結果で陰性が確認された場合のみ、バブルに入ることが許される。」という概念のもと、感染リスクの最小化が図られました。カイロ空港で降機する際、私たちは航空機の後部出口から、一般客とは違う動線にて機外に出ることとなりました。その後、タラップの近くに準備されたバスへ乗り込むことになりました。バスに乗り込む前にパスポート・入国カード・税関申告書・新型コロナウイルス感染症陰性証明書を大会組織委員会の方に預けました。諸手続きの際に、様々な人に近付かない様にするために、代行で諸手続きを行っていただきました。バスに乗り込んで、すぐに抗原検査が実施されました。その結果、全員の「陰性」が確認されたのち、バスがホテルへ向けて出発することになりました。ホテル到着後、手荷物の消毒・検温・手指の消毒を行い、次は PCR 検査をすることとなりました。PCR 検査は抗原検査とは違い、結果が出るまでに数時間要するということもあり、結果が出るまでは自室にて待機することを指示されました。昼食と夕食はルームサービスが準備され、検査結果は深夜に出ましたが、翌朝朝食時にチーム全員で顔を合わすまで待機（隔離）されることとなりました。検査結果はもちろんのこと、全員が「陰性」という結果でありました。以降、エジプト滞在 25 日間で計 17 回の PCR 検査を受検しました。鼻と喉からの検体採取、世界選手権が開幕したのは毎日の検査については、正直なところ相当なストレスを感じることもとなりましたが、エジプト政府が大会関係者の安心・安全を担保する上で、貴重な資源を我々に提供いただいたことには感謝の気持ちでいっぱいでした。検査が毎日実施されるようになった背景は、「バブルの中の感染症リスクの最小化」が図られたものの、参加チームからや、メディア関係者から感染者（陽性判定者）が出たことが起因しているとのことと考えられました。私たちは、チームのメディカルスタッフの献身的な働きにより、ガイドラインに示された予防対策にのみ頼ることなく、自己防衛に努めました。

このような平時とは違った雰囲気・環境の中で、世界選手権を戦ったのですが、チームはこれらの雰囲気・環境を受け入れ、本来の「最高のパフォーマンスを発揮する」ということに集中することに一致団結しました。詳しい内容はスタッフ・選手からのコメントがあると思いますので、私からは控えさせていただきますが、ここまでの経験の中で得た貴重な知見や磨かれてきた感性が成果として結果に現れ出てきたように感じました。8 位カタルと勝点 3 の差で第 19 位であったことに関しては、一番は悔しい思いが強くあり、反省しているところではありますが、反面、試合内容を振り返ると東京 2020 大会への期待も膨れたようにも感じます。いずれにせよ、ここがゴールではありませんので、この経験を次のステップへつなげることが重要と考えています。

大会を通して、JHA 広報の積極的な働きかけもあり、多くの方々からの温かい応援メッセージもチームに届けられました。これらの皆さんからの声もチームのエネルギーになったことと思います。JHA としては、以前より『する人・観る人・支える人（教える人）』の拡充を課題と捉えています。東京 2020 大会に向けて「彗星 JAPAN」の強化を推進することは当然のことながら、ハンドボール競技の価値向上に向けても積極的に取り組んでいかなくてはならないことを改めて強く感じました。全国の方々のご協力・ご支援のもとにこれらのことが取り組まれ、皆様と共に達成感が得られることを望んでいます。最後に、全国のハンドボール関係者の皆様に男子世界選手権でのご声援に対して改めて御礼申し上げますと共に、引き続きのご支援をお願いいたします。

The Analysis report of the Men's National team (World Championship in Egypt 2021)

Introduction

It is safe to stay that we are living in strange and difficult times at the moment due to coronavirus pandemic and so it is only normal that our preparation is looking different than we have had before. Due to the pandemic we had to cancel most of our training camps in 2020 that meant that we did not have the possibility to invite guest players to train with us, that has been very helpful in the past. We also had to cancel all of our test games for 2020, we also canceled our preparation tournaments in Europe (Swiss and Poland) before the World Championship and instead decided to go directly to Egypt and play against the host nation, this would minimize our risk of Covid19. I came to Japan in the middle of October and had 14 days quarantine before we started our first camp in the middle of November, because I had not seen the players for a long time since Asian Championship (Kuwait) in January 2020, I decided to invite some players that did not get so much chance in the past. Also, because I knew that World Championship an Olympic Games in the same year would mean little rest time for some of our core players. This camp was also a little bit shorter than originally planned because of the pandemic. From middle of November to middle of December we used the time to visit some of the JHL games and the Japanese championship. Our camp was from middle of December was then more direct preparation for the World Championship. It was difficult to have our playmaker Agarie injured most of this camp as well as our captain Doi and unfortunately Matsuura had to leave the camp because of injury. In the beginning of January, we flew to Egypt and made two test games against Egypt, the first one was shortly after the landed so our performance not 100% physically but it was good to see all members finally get a feeling for the task. The second game against Egypt was much better and showed that

日本代表チーム 報告書 (世界選手権 2021)

はじめに

新型コロナウイルスの世界的蔓延により、現在、非常に困難で奇妙な情勢が続いていますので、今回は安全を考慮して、我々は以前とは異なる方策で世界選手権に向けた準備をしました。また、強化策の一つである、外国人ゲストプレイヤー招聘してトレーニングパートナーとしてチーム強化を図ることも、新型コロナウイルスの影響で出来ませんでした。また、2020年の強化活動は殆どキャンセルせざるを得ない状況でした。また、我々は2020年の全ての国際親善試合をキャンセルしなければいけませんでした。世界選手権に向けた欧州遠征（スイス・ポーランド）を予定していましたが、それらもキャンセルし、その代替えとして、エジプト遠征を実行し、現地でエジプト代表と国際親善試合を実施することにしました。このことは、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを低減することに寄与するものでした。私は、11月中旬から予定していた国内強化合宿に向けて10月の中旬に来日し、そのまま14日間の自主隔離期間を過ごしました。そして、2020年1月に行われたアジア選手権（クウェート）以来、長い間、直接、選手を見る機会がなかったので、11月の国内強化合宿には、今まで招集されたことのない、もしくは、過去に招集されていても、チャンスを活かしきれていなかった選手を中心に招集しました。また、世界選手権とオリンピックが同じ年に開催されますので、今まで日本代表チームで中心となって活動してくれた選手には、来たるタイトなスケジュールに備えて、少しの期間ではありますが休息を与えなかったので招集を見送りました。11月の国内強化合宿の実施期間は新型コロナウイルスの影響もあり、当初の予定より期間を短くして実施しました。11月の国内強化合宿終了後、11月中旬から12月中旬にかけて、日本リーグ（JHL）と日本選手権の視察を実施しました。その後、世界選手権に向けた国内強化合宿を12月中旬にスタートさせました。国内強化合宿期間中、残念なことに松浦選手が負傷の為、離脱しなければいけない状況となり、また、プレーメーカーの東江選手とキャプテンの土井選手のコンディションがなかなか上がらずにメンバー構成に苦慮しました。その後、1月の初旬にエジプトに渡り、現地でエジプト代表と2試合の国際親善試合を行いました。初戦は、現地に到着して間も無かったこともあり、身体的にも100パーセントの状態ではありませんでしたが、全選手が国際試合を通して試合感覚を掴めたことは良いことでした。エジプト代表との第2戦目は、第1戦目よりコンディション・パフォーマンス共に良くなり、世界選手権に向けて良い準備が出来ました。エジプト代表との2試合を終えた後、アダム選手がトレーニング中に負傷してしまい、チームは大きな衝撃を受けました。それまで、アダム選手は大変好調で、彼はチームが「5-1DF」を実施する際、また、攻撃面においても重要な選手でした。3月にはアダム選手が復帰して、オリンピックに向けた準備に参加してくれる事を祈念します。この出来事により今

we were ready for the tournament. It was a shock for us after in training after these Egypt games that Adam got injured, this was a blow for us because he was in very good form and was an important player for both our 5-1 defense and in attack. Hopefully Adam will be fit from March to take full part in our preparation for the Olympics. This also meant that we used our 6-0 defense much more in the competition and I must say that it looked very good and stable most of the time and worked well with our goalkeepers. We traveled to Alexandria with mixed feeling knowing that we had a very difficult first game against European silver medalist Croatia at the same time we had confidence after the last Asian Championship 2020 and also the fact that some of our players now have more experience in a tournament like this, so we have been through some of these moments together before. Our aim is always to play to our maximum, and we know that this is sometimes not even enough, but we also know that it is not easy to beat us when we do that. This requires a lot of discipline in our playing style and ruthless approach and cool head to take our chances.

World Championship:

[Game No.1, January, 15]

CRO 29 (14 - 17) (15 - 12) 29 JPN

CROATIA:

We managed to do that in our game against Croatia as they found it very hard to break us down. We even had a chance to win the game but in the end a draw was the result and speaking with the Croatian players I heard they were full of respect for our team and said that the draw was well deserved.

[Game No.2, January, 17]

QAT 31 (15 - 16) (16 - 13) 29 JPN

QATAR:

Our next game was against our rival Qatar, we have been playing well against them lately, but they have an extremely strong squad and will be difficult to beat, but we are getting closer each time. We had a good chance in this game to get at

まで同様に「6-0DF」に多くの時間を費やすことになることや GK 陣との連携もより大切になってくることを確信しました。その後、予選ラウンドが行われるアレキサンドリアへ移動の際には、様々な感情が入り乱れていました。それは、ヨーロッパ選手権のシルバーメダリストであるクロアチア代表との初戦が待ち受けていること。また、アジア選手権 2020 など、これまで様々な経験を共に積んで経験値が上がり、チームも自信を付けている事などを感じていました。我々の目標は常に持てる最大限の力を発揮する事です。当然、時には最大限の力を発揮したとしても、勝利には充分ではないことがあるかも知っています。しかし、また、そのような状況の時は、簡単に負けないかも知っています。この状況を創り出すためには、チームの規律を守ることや手段を選ばないアプローチ、また、チャンスを実にものにするクールな思考が必要になります。

世界選手権

【予選ラウンド グループC】

▽1月15日

日本 29 (17-14, 12-15) 29 クロアチア

クロアチア代表戦

クロアチア代表にとっては、我々を破ることは難しい事であると感じたでしょう。我々はクロアチア代表に対して自分たちのプレーが出来て善戦しました。実際、勝利するチャンスがありましたが、結果は引き分けに終わりました。また、クロアチア代表の選手たちからは、本気でこの試合に臨んでおり日本代表についても尊敬の念を持っている。と聞きました。

非常に価値のある引き分けでした。

【予選ラウンド グループC】

▽1月17日

日本 29 (16-15, 13-16) 31 カタール

カタール代表戦

我々の次の対戦相手はライバル、カタール代表でした。我々は常にカタール代表に対して非常に良いプレーを見せていますが、彼らもとても強力な選手たちを有しており、今までも勝利までは一歩足りませんでした。しかし、試合を重ねるごとに、我々の実力が彼らに近づいている事を実感しています。この試合、少なくとも引き分けに持ち込み1ポイントを獲得するチャンスがありましたが、レフトバックの Frankis 選手(今大会得点王)は強力で、試合終盤のチャンスを生かせず敗退しました。しかし、チームのパフォーマンスは誇れるものでした。

【予選ラウンド グループC】

▽1月19日

日本 30 (16-12, 14-17) 29 アンゴラ

アンゴラ代表戦

予選リーグ第3戦目は大きなプレッシャーのかかったアンゴラ

least one point but the LB Frankis was too strong for us and we also did not use our chances at the end of the game so we lost but we could be proud of the performance.

[Game No.3, January, 19]

JPN 30 (16 - 12) (14 - 17) 29 ANG

ANGOLA:

The third game of the group was a big pressure game against Angola, we lost to Angola 2 years ago with 3 goals and I must say that they have also improved since then, in the tournament they lost one very important player due to injury so that the second half of the tournament was not so strong for them. They have big and strong physical team with good shooters. It was a very hard game for us, but we played very well and won a strong win to get into the main round.

[Game No.4, January, 21]

ARG 28 (17-13) (11-11) 24 JPN

ARENTINA:

After fighting 60 minutes in all of our group games, it would have been good to stay at the same hotel and rest well but unfortunately, we had our main round in Cairo, so our rest day turned into travel day with check out, 3 hours bus trip, check inn and then bus one hour bus trip to training and one hour bus trip home and we also had to have tactical meetings, lunch and dinner so it was a hectic preparation for this important match. In my opinion we did not prepare well enough for this match and it always felt that we were missing the last 5%. Our performance was good but not good enough to win the game, Argentina was always one step ahead.

[Game No.5, January, 23]

JPN 27 (17 - 19) (10 - 15) 34 DEN

DENMARK:

I felt after the game we needed to give some players more resting time, so we chanced Iwa, Doi and Motoki out and got fresh players with Sugi, Demura and Sakai into the team. This gave us fresh approach and energy for a tough match against

代表戦となりました。アンゴラ代表には2年前の世界選手権では3点差で敗退しており、その後も彼らは大きな成長を遂げていました。アンゴラ代表は予選リーグ期間中に主力選手の一人が負傷していました。彼らは良いシューターを有し、形態的にも大きく、強いフィジカルを持ったチームです。我々にとってはとても難しいゲームとなりましたが、良いパフォーマンスを見せて勝利を収め、メインラウンド進出を決めました。

【メインラウンド グループII】

▽1月21日

日本 24 (13-17, 11-11) 28 アルゼンチン

アルゼンチン代表戦

大会期間中、ホテルの移動が無く、試合の後に常に同じホテルで十分に休息出来ることは良い事ですが、今回は残念ながら、カイロで行われるメインラウンドに向けて、休日にも関わらず、アレキサンドリアからカイロに向けて移動をしなければいけません。チェックアウト後、3時間をかけてバスでカイロに向かい、チェックインをして、バスで1時間かけてトレーニングへ。

トレーニング後は再び1時間かけてホテルに戻り、それ以外にも、戦術的なチームミーティング、ランチ、ディナーなど、重要な1戦に向けて忙しい1日を過ごしました。私としては、この試合に向けて我々は十分な準備が出来ていなかった、最後の5%位、何か足りないと感じていました。チームのパフォーマンスは良かったですが、勝利には充分ではありませんでした。アルゼンチン代表は常に優位な位置を保っていました。

【メインラウンド グループII】

▽1月23日

日本 27 (17-19, 10-15) 34 デンマーク

デンマーク代表戦

これまで試合を重ねてきて、私は複数の選手に休息を与える必要があると感じていました。そして、岩下選手、土井選手、元木選手をメンバー外にして、代わりにフレッシュな杉岡選手、出村選手、坂井選手をメンバーに加えました。この決断は、世界チャンピオンであるデンマーク代表戦に向けて、チームに新鮮なアプローチとエネルギーをもたらしました。この試合は、負けはしたものの、我々のベストゲームの一つに挙げられると思います。試合終了の最後の瞬間まで、我々はデンマーク代表に対してチャレンジを継続することができました。我々はこのような試合のパフォーマンスから、たくさん経験を獲得することが出来るでしょう。

【メインラウンド グループII】

▽1月25日

日本 29 (19-12, 10-13) 25 バーレーン

バーレーン代表戦

再びプレッシャーのかかったバーレーン代表との1戦となりました。バーレーン代表もデンマーク代表やアルゼンチン代表と同様に

the World Champions. This was one of our best games even though we lost, we could challenge Denmark almost until the end. We will gain a lot of experience after performance like this.

[Game No.6, January, 25]

BRN 25 (12 - 19) (13 - 10) 29 JPN

BAHRAIN

Again, pressure game against Bahrain who, like Denmark and Argentina are also qualified for the Olympics 2020. We played them two times last January and won both matches so we had confidence going into the game and I must say that this is our best first half performance ever. We played almost a perfect first half and the game was almost over, of course we had to keep our concentration at halftime and make sure they did not have a chance to come back into the game. Strong defense and goalkeepers and lot of fast breaks with good concentration shooting was the key for this successful end of the tournament.

Conclusion

All together I'm happy with our performance at this tournament and I must say that it gives me joy to finish one place higher 19th than my mother country Iceland 20th. I want to thank all the players and staff, not only those who were with us but also those who are helping us from Japan and ready to give everything when called up on. JHA, JHL and sponsors for their support for the team. We have a young and dynamic team that enjoys playing together and are ready to take on a challenge. Our next camp will start after the playoffs, 18th march. Due to the pandemic, we must be flexible and see what chances we have for training games etc. Most important is that our people, players and staff stay safe and that we can support the fight against covid19 as well as prepare in the best possible way for the Olympics. Looking forward to continuing the road to Olympics and beyond.

**Head coach of the Men's national team,
Dagur Sigurdsson**

オリンピック 2020 の出場権を持っています。昨年 1 月（アジア選手権）では 2 戦して 2 勝し、自信を持ってゲームに臨むことができました。この試合の前半戦はチーム発足以来、ベストの試合でした。前半戦、我々はほぼパーフェクトなプレーをしました。そして、前半でこのゲームの勝敗を決めることができました。もちろん、ハーフタイムでも、後半に向けても集中をキープし、バーレーン代表が息を吹き返さないように注意しなければいけませんでした。GK を含めた強固な守備、そこからの速攻。高い集中力を保った状態でのシュート。これらのことがこの大会最後の試合にとっての重要なポイントでした。

結び

全体的に世界選手権を通してのパフォーマンスには満足していません。結果は 19 位でしたが、20 位に終わった私の母国であるアイスランドより上位に位置出来たことは喜びでした。今回、全ての選手・スタッフに御礼を言いたいと思います。また、現地にいたメンバーだけでなく、日本でサポートしてくれた皆様を含めて全ての関係者の皆様、さらには、チームをサポートしてくれた JHA や JHL、そしてスポンサーの皆様にも御礼申し上げます。我々のチームはまだまだ若く、そしてダイナミックです。一緒にプレーするのを楽しみ、チャレンジする姿勢も持ち合わせています。次のキャンプはプレーオフ後の 3 月 18 日スタートを予定しています。新型コロナウイルスの世界的蔓延の影響により、我々は物事に対して柔軟に対応していかなければいけません。そして、トレーニングゲームなど、どのようなチャンスがあるかを常に注視しなければいけません。最も大切なことは、新型コロナ対策を実施した中で、選手やスタッフを含めた全ての関係者が、安全で且つ、オリンピックに向けて最善の準備をすることです。オリンピック、そして、オリンピック後に向けて、さらに歩み続けることを楽しみにしています。

(訳：日本代表コーチ 舍利弗学)

日本代表 監督

ダグル・シグルドソン





土井レミイ杏利選手のコメント

【今回の世界選手権を振り返って】

全試合で良い勝負ができた。アルゼンチン戦は、自分たちがやりたかったことが出きれずに終わったが、それ以外の試合は選手・スタッフ全員が自分の役割を果たすことができた。チームの成長を実感している。嬉しいのは、試合に出ている選手だけではなく、スタッフや試合に出られなかった選手がチームのために何かできることは無いか、という気持ちが表れたことだ。全員で勝ちに向かって、まとまって戦えた大会だった。(ベスト8、12位以内という)高い目標には達しなかったが、次に繋がる闘いになった。

【今回の大会で掴んだものは】

今までやってきたことが出せた、しかもそれが通用したことで、自信を身に付けることができた。今後は出場時間が長い選手と短い選手の偏りがあるのを減らしていくことと、個人個人が身体も心も世界と戦えるレベルまで、勝ち切る強さが身に付くまで鍛えていくことが必要だ。

【今回の大会を終えて、世界との距離は】

もう(日本は)簡単に勝てる相手ではないというのを世界に示せたのではないかな。世界のトップクラスとの距離は近づいているのは、誰もが感じている。

【東京オリンピックに向けては】

オリンピックをどういう状況で試合を行えるかが重要だ。自国開催ではあっても、試合会場で声を出してくれる観客の後押しが有るか無いかで、ホームでやることの意味が変わってくる。有観客であれば、試合の流れも掴みやすい。サポーターの後押しはチームの力になり、間違いなく良い試合ができる。この先、世界の状況が良いように変わって欲しい。

【二週間以上、バブルの中で生活したが】

PCR検査を18回受けた。できれば、もう二度と経験したくない。ただでさえプレッシャーを抱えた中で試合をしなければいけない上に、外的なストレスが多いのは相当なメンタルの負担になる。すぐ傍に外があるのに出られないし、誰とも接触できない。ずっと建物の中にいなければいけないのは不健康だ。さらに食中毒の危険性もあり、食生活にも気を付けなければいけない。部屋の冷暖房が効かない。Wi-Fiが繋がらないとか、いろんなストレスがあった。

ただ、日本選手団に誰も感染者が出ずに大会を終えられたのは良かった。



©Yukihito Taguchi/JHA



吉田守一選手のコメント

【今回の世界選手権で得られたもの】

みんなの「絶対負けないぞ！」という闘争心が一ランク上がったと思う。

個人的には、世界でも通用するフィジカルを現時点で手に入れていると思う。

でも、ポストとしての細かいスキル、戦術理解、経験値、体力面は世界のトップクラスと比べたらまだ足りない。

【今大会を通じて出た課題】

世界のトップクラスと比べて、経験が足りない。まずは色んなことを経験する。こういう世界選手権やポーランドリーグで、経験を積み重ねて、自分の経験値を上げていく。今大会、ディフェンスで2枚目と3枚目をやることがあった。2枚目、3枚目の守り方は少し異なるので、どっちで起用されてもこなせるようにしていく。ポーランドリーグでも両方やるので詰めていきたい。

【コロナの影響で一旦帰国したが、再びポーランドへ行った理由】

目指しているのは世界のトップクラブに行くこと。日本でやってもビッククラブにアピールすることは難しい。海外で経験を積み、徐々にステップアップをし、ビッククラブを目指す。この世界選手権も相当アピールできる場だったが・・・まあ、段階を踏んでビッククラブに近づけていけたらと思う。

【オフェンスとディフェンス、どちらに自信があるか】

オフェンス。(ダグル監督には)世界のトップ選手と比較して、10段階でオフェンスは8、フィジカルは9。ディフェンスや経験値、体力面、細かな技術については、3。そこは指摘してもらい、自分の課題が明確になったので、ポーランドリーグで詰めていきたい。

【東京オリンピックに向けて】

全世界が注目する場であり、自分をアピールするチャンス。まずはメンバーに選ばれることが目標。その為に、ポーランドリーグで実力を伸ばす。もし、選ばれたら目標はメダル獲得。今のままじゃ厳しいけど、自分の中に変化をもたらして、日本のチームにいい影響を与えて、世界の強豪をぶっ倒して、メダル獲得というのがオリンピックの目標。





岩下祐太選手のコメント

【今回の世界選手権を振り返って】

自分にとって初めての世界選手権で、最初は緊張や不安があったが、他のチームメイトや2人のキーパーと2人のキーパーコーチの支えのおかげで、良い形で試合に臨むことが出来た。

【デンマーク戦後からバーレーン戦に向けてどう準備したか】

デンマーク戦で、中村選手と坂井選手が好セーブをして「自分ももっと奮起しないと！」と勇気付けられて、最後のバーレーン戦にいい気持ちで臨むことが出来た。

試合前には、アンテックコーチと個人面談をし、今の状況に対しての言いたいこと等を話して、ちゃんと試合に気持ちを持っていくことが出来た。

【好セーブ連発の要因は】

こういうシュートが多いとか相手選手の癖をしっかりインプットして臨み、試合中に迷うことなくプレーすることができたのが良かったと思う。

【二週間以上、バブルの中で生活したが】

毎日のPCR検査が辛かった・・・

でも、ここまで一人も感染者を出すことなくやれたのは、このバブルに守られていたおかげだと思う。しっかり、最後まで陽性者を出すことなく、無事に日本へ帰れるようにしたいです。

【東京オリンピックに向けて】

オリンピックでは12ヶ国の強豪が集まってくる。体格で勝る相手に対しては、強くコンタクトをしないと強いシュートを打たれて、まったく取れない状況が絶対あり得ると思う。今以上の強いコンタクト、強いフィジカルをもって、DFを頑張ってもらいたい。自分は、DFが頑張ってくれて最後苦しい体勢でのシュートを止められるように頑張りたい。



©Yukihito Taguchi / JHA

日本代表世界選手権 2021 (エジプト) 報告書・戦評

日本代表コーチ 舍利弗 学

日本代表(彗星ジャパン)は、1月13日から31日の日程でエジプトにて開催された「第27回世界選手権」に出場しました。先ず、チームは12月14日に味の素ナショナルトレーニングセンターに集合し、集合時には選手・スタッフ全員がPCRテストを受けるなど、感染症対策を講じながらの強化合宿を実施しました。合宿中はハンドボールトレーニングと並行して、相川ストレングスコーチによる「ウェイトトレーニング」や立谷メンタルトレーナー(国立スポーツ科学センター)による「メンタルトレーニング」、桂パフォーマンスコーチの「フィジカルトレーニング」を実施。さらには、「インテグリティ研修」として、野呂JHA副会長による「コンプライアンス研修」を実施。また、黒澤管理栄養士(味の素ナショナルトレーニングセンターサクラダイニング)による「栄養セミナー」など、研修の機会も数多く設けて競技力のみならず人間力の成長も目指しました。さらに、食事・栄養面については、「味の素ビクトリープロジェクト」上野氏より各種サプリメントの提供を受け、その効果的な摂取方法やタイミングについてのレクチャーも実施していただきました。また、食事時には、黒澤管理栄養士のご指導の下で栄養価の高い食事を摂取し、コンディションの向上に寄与するなど、充実した環境において強化合宿が実施出来ました。その後、1月2日の深夜便にてドバイ経由でエジプトに向かいました。

以下、第27回世界選手権における試合内容(戦評)についてご報告いたします。

【彗星ジャパン 世界選手権直前エジプト遠征 第1戦 1月5日】

日本代表 29 (16 -17, 13 -17) 34 エジプト代表

得点者：水町1点、元木1点、吉野7点、部位久5点、土井3点、出村2点、成田1点、徳田廉之介4点、高野1点、渡部2点、吉田1点、坂井1点

エジプト遠征1戦目。相手はアフリカ選手権2020の優勝国であり、既に東京オリンピック出場を決めている地元エジプト代表。前回の世界選手権でも8位に入り、欧州トップリーグでプレーする選手も揃え、この後に開催される世界選手権ではホスト国として、さらに上位入賞を狙っている世界の強豪国の一つ。会場は世界選手権のメインホールであるCairo Stadium Indoor Halls Complex。

日本はGKに岩下。玉川をセンターDF、そして、この日に日本代表デビューとなった高野をトップDFに、2枚目DFに渡部と吉田、1枚目DFに元木と吉野を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃は、プレーメーカーには高野と同じく本日本代表デビューの水町を配置し、渡部と吉野がバックコート、元木と高野がサイド、ポストに玉川の布陣となった。立ち上がり、日本の「5-1DF」に対してエジプト代表は冷静に対応し、効果的なコンビネーションプレーから連続失点を喫する。対する日本代表もコンビネーションプレーから、水町のブレイクスルーで得点。しかしその後はリズムを作れず、逆に相手の得意な速攻から失点するケースが多くなる。日本は1回目のタイムアウトを請求。攻守のリズムを取り戻しにかかる。その後、落ち着きを取り戻した日本は元木のサイドシュート、吉野のディスタンスシュートなどで加点。DFでも吉野の攻守からそのまま速攻へ繋ぎ自ら決めるなど好プレーが垣間見え、前半15分には同点に追いつく。そして、前半20分には、この日久しぶりの日本代表戦となった出村のサイドシュートで9対8とリードをする。その後、日本は成田を投入し、「6-0DF」にDF形態を変える。この戦術変更も奏功し、土井のインターセプトから速攻でリードを広げる。さらにリードを広げたい日本であったが、DFでの退場も重なり、更には、ブンデスリーガ(FLENSBURG)でもプレー経験もあるエジプトを代表する選手の一人、Ahmed El-Ahmarの巧みなプレーによりなかなかリードを広げられない。日本も吉野のディスタンスシュート、ポーランドリーグで大活躍中の徳田廉之介のパスから土井のサイドシュート、成田の速攻などで引き離しにかかるが、エジプト代表も日本の退場の際に的確に加点し、さらには、重量級のポストを利用した2対2から得点をするなど、その後は、一進一退の攻防が続く。前半終了間際には、エジプトがタイムアウトを請求し7対6の攻防から得点を許してしまい、16対17の1点差で前半終了。

ハーフタイムでは、オフenseの局面、特にセットオフense時のポジショニングやボールの動かし方について再度確認。

DFについては後半のDFプランについて共通理解を図った。

後半、日本は、GKに坂井。笠原、成田を3枚目DFに配置し「6-0DF」でスタート。立ち上がり、吉野のインターセプトから速攻で先制。そのまま勢いに乗りたい日本であったが、相手のポストプレーなどに対して、連続して退場をしてしまい、なかなかリズムを掴めない時間が続く。徳田廉之介の7MTやミドルシュートなどで食い下がるが、数的優位な時間帯をエジプトは有効に使い、徐々に点差を広げていく。日本はチャンスこそ創出するものの、相手GKの好守にも阻まれ、苦しい時間帯が続く。後半15分には、部井久をトップDFに配置した「5-1DF」に変更。坂井の好セーブから渡部の速攻からのミドルシュートなどで得点するものの、その直後、玉川がこの日3回目の退場でレッドカードを受け、またしても数的不利な時間が長く続く。試合はそのまま29対34で終了。試合終盤は、エジプトも7人攻撃を試みるなど、両チームともに世界選手権への試金石とするべく、この親善試合の意図を感じられる内容となった。

新型コロナウイルスの世界的蔓延の影響により、約1年ぶりの国際試合となり、長らく実戦機会から離れていたが、来たる世界選手権に備えて、さまざまなトライアルを出来た内容の濃い試合となった。明後日、もう一度エジプト代表と親善試合を行うが、そこでも世界選手権前の最後の有用な調整の場として活用したい。

【彗星ジャパン 世界選手権直前エジプト遠征 第2戦 1月7日】

日本代表 25 (16 -15, 9 -18) 33 エジプト代表

得点者：笠原2点、北詰1点、部井久2点、成田1点、徳田新之助1点、渡部2点、玉川1点、吉野4点、東江2点、出村2点、水町1点、徳田廉之介2点、吉田4点

エジプト遠征2戦目。この日の会場も世界選手権のメインホールであるCairo Stadium Indoor Halls Complex。世界選手権前、最後のテストマッチとなったアフリカチャンピオンであるエジプト代表戦。ベンチ入りメンバーは20名の選手全員。お互いにプレータイムをシェアしながら、前回同様にこれまでのトレーニングの成果の確認と、来るべき世界選手権に向けての課題を抽出する良い機会となった。

日本はGKに岩下。笠原と成田をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに元木と土井を配置した「6-0DF」でゲームスタート。攻撃は、プレーメーカーには先日日本代表デビューを果たした水町を配置、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣となった。

立ち上がり、日本の好守から速攻で渡部が先制点を決める。対するエジプトもクイックスタートから得点を決め、試合が動き出す。岩下のセーブから吉野の速攻で加点、エジプトも得意のクイックスタートで反撃を試みるが、先日の試合からバックチェックの方法を徹底した日本は得点を許さず、セットオフenseの攻防に持ち込む。エジプトは重量級のラインプレーヤーを軸に攻撃を組み立てる。日本はエジプトのアグレッシブな「6-0DF」に対して攻撃の意図を統一して攻略を進め、水町が得た7MTのチャンスを徳田廉之介が確実に決めるなどして、試合を優位に進めていく。岩下の好セーブもあり、点差を広げたい日本であったが、エジプト代表GKにノーマークシュートを止められるなどして、我慢の時間が続く。水町と笠原のコンビプレー、コンビネーションから部井久のディスタンスシュートなど随所に好プレーも見られたが、エジプトも優位なフィジカルをフルに使ったプレーで加点する。前半途中で、日本はセンターに東江、ラインプレーヤーに吉田を同時に投入。これが奏功し、東江のリードから2人のコンビネーションで吉田が得点するなど、ラインプレーヤーの吉田が機能し、部井久のブレイクスルーや出村のサイドシュートなどで徐々にエジプトを引き離す。エジプトはDFを「5-1DF」に変更し、日本の攻撃を止めにくるが、日本は成田の速攻などで反撃のチャンスを与えない。13対10の日本の3点リードとなったところで、エジプト代表はタイムアウトを請求。この後も、東江の好リードから、相手DFの弱点をついたコンビネーションで日本代表は加点していく。このまま、一気に点差を広げたい日本であったが、ノーマークシュートを連続でエジプトGKに阻止されるなどして、なかなかリズムに乗れない時間が続くも、16対15の1点リードで前半終了。ハーフタイムでは、後半に向けてのメンタル面の準備と、戦術面では主にバックチェックについて再度の共通理解を図り、後半に臨む。後半、日本はGKを坂井に変えてスタート。

スタート直後、Yahia Omar (Veszprém) のパスワークから7MTを与えてしまい水町が退場。そのまま先制点を許す。その後も、日本は退場者を出してしまい苦しい時間帯が続き、逆転を許してしまう。コンビネーションプレーから、渡部のミドルシュート、吉野のディスタンスシュートで引き離されない。しかし、テクニカルエラーを連続してしまい、徐々に点差が生じていく。チャンスを創出するものの、相手GKの好セーブにあうなどして、リズムに乗れない時間帯が長く続く。徳田新之助をセンターに、北詰と徳田廉之介をバックコートに配置するなど、世界選手権に向けてのトライア

ルも試みるが、「5-1DF」に変更したところを Yahia Omar (Veszprém) にミドルシュートを決められてしまう。後半 15 分。21 対 25 となったところでタイムアウトを請求。GK に今回初代表の中村を投入。攻守の立て直しを図り、徳田新之助のミドルシュート、出村のパスカットからの 1 次速攻などで詰め寄るもののフランスの Montpellier でも活躍した Mohamed Shebib (Dinamo Bucuresti) の巧みなポストプレーもあり、試合を落ち着かせることはできずに時間が経過する。日本は「7 人攻撃」を試みるなど、最後まで抵抗を見せるものの、そのまま試合終了。最終的なスコアは 25 対 33。この試合では、当初の予定通り、プレー時間をシェアしながら、ベンチ入りメンバー 20 名全員が出場の機会を得るなど、強豪国相手に世界選手権前最後の調整の場としては非常に有用であった。開幕戦（15 日）まであと 1 週間。残りの時間を最大限に活用しながら、トップコンディションで開幕を迎えたい。

【彗星ジャパン 世界選手権 第1戦 予選ラウンド 1月15日】

日本代表 29 (17 -14, 15 -12) 29 クロアチア代表

得点者：成田 3 点、渡部 1 点、土井 1 点、元木 4 点、玉川 2 点、吉野 4 点、東江 5 点、水町 3 点、高野 1 点、徳田廉之介 5 点

世界選手権 1 戦目。相手はヨーロッパ選手権 2020 の準優勝国であり、過去、オリンピック金メダル 2 回、世界選手権も優勝の経験がある強豪国のクロアチア代表。率いるのは、クロアチア代表を率いて、オリンピック、世界選手権ともに金メダルを獲得している世界の名将の一人、Lino Cervar。全ての選手がドイツ、スペインなど欧州トップリーグでプレーを経験し、Domagoj Duvnjak (THW Kiel)、Luka Cindric (FC Barcelona) などのスター選手も顔を揃える。

日本は GK に岩下。成田と笠原をセンター DF、2 枚目 DF に渡部と吉野、1 枚目 DF に元木と土井を配置した「6-0DF」でゲームスタート。攻撃は、プレーメーカーには東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣となった。今大会、新ルール適用より、試合毎に毎回 16 名のベンチ入りメンバーを選べる為、この日のベンチアウトは杉岡、中村、吉田、部井久となった。

立ち上がり、GK 岩下の好セーブにより試合が動き出す。日本のミスから逆速攻により失点。対する日本も相手の「5-1DF」に対して、プレーメーカーの東江を中心に効果的なコンビネーションプレーを選択し、東江の 7MT でスタート。その後も得点を重ねていく。日本の DF 陣も成田と笠原を中心に辛抱強く耐え、相手にチャンスを与えない。クロアチアにノーマークシュートの機会を創出されるも、岩下の好セーブで切り抜ける。玉川の速攻で 6 対 2 となったところで、クロアチアがタイムアウトを請求。日本が主導権を握る。タイムアウト明けも、渡部がポストパスをインターセプトして、成田の速攻に結びつける。対するクロアチアも、ブンデスリーガの Leipzig で活躍中の Marko Mamic のディスタンスシュートや、同じくブンデスリーガ所属で、長く Melsungen でプレーをしている Marino Maric のポストプレーなどで、追従を試みるが、日本は東江のリードから元木のサイドシュート、徳田廉之介のカットイン、水町のクイックスタートでさらにクロアチアを引き離す。前半残り 4 分、16 対 11 の 5 点リードの場面で日本はタイムアウトを請求。もう一度、攻守の約束事を確認する。その後も水町のブレイクスルーで加点し、17 対 14 の 3 点リードで前半終了。

ハーフタイムでは、主に DF についての修正点を確認。相手コンビネーションプレーに対して守備についての共通理解を図った。

後半、クロアチアは Ivan Cupic (Vardar) をライトバックに、Zlatko Horvat (Metalurg) をライトウィングに配置し、機動力を使って日本の DF 陣を崩しにくる。退場者を出し、流れの悪い時間帯を作ってしまうが、岩下の好セーブもあり、元木のリバウンドシュート、渡部のミドルシュート、徳田廉之介の 7MT などで、着実に加点していくも、Luka Cindric (FC Barcelona) と Domagoj Duvnjak (THW Kiel) の巧みなプレーに苦しめられる時間も続き、後半 15 分で 23 対 21 の 2 点リード。ここで、日本は GK に坂井を投入して新しい風を期待する。後半 18 分。23 対 23 の同点となったところで、日本はタイムアウトを請求。タイムアウト後、元木のスキルフルなサイドシュートが決まり、1 点勝ち越し。その後、一進一退の攻防が続き、残り時間 1 分半、GK 岩下が Ivan Cupic (Vardar) のサイドシュートを好セーブして、日本のマイボール。日本はタイムアウトを請求。タイムアウト後の大切な攻撃機会の共通理解を図る。その攻撃を吉野のブレイクスルーで得点し、残り 1 分、1 点差のリード。終了間際に、相手 7MT のチャンスを Ivan Cupic (Vardar) に決められ、29 対 29 の同点で終了。優勝候補の一角に大金星とまではいかなかったが、終始日本がクロアチアをリードする形でゲーム運び、欧州の強豪国相手に国際舞台で初の引き分けに持ち込んだと同時に貴重な勝点 1 を獲得した。

新型コロナウイルスの影響により、2020 年 1 月のアジア選手権以来、約 1 年ぶりの国際試合となり、若手の初代表の

選手も数名いる中で、最後までメンタル面でも体力面でも互角以上に戦えたことは、これまでのトレーニング（メンタルトレーニング・フィジカルトレーニング含）の積み重ねの成果と言える。予選ラウンドは引き続き続くので、次のカタール戦（17日）に向けて良い準備をして再度試合に臨みたい。

【彗星ジャパン 世界選手権 第2戦 予選ラウンド 1月17日】

日本代表 29 (16 -15, 13 -16) 31 カタール代表

得点者：笠原 1点、成田 1点、渡部 3点、土井 7点、元木 2点、吉野 5点、東江 6点、水町 1点、徳田廉之介 1点、吉田 2点

世界選手権 2 戦目。相手はアジア選手権 2020 の優勝国カタール代表。アジア選手権では 28 対 36 と敗れており、帰化選手を揃え近年アジアを席卷してきた強豪国。2015 年の世界選手権では準優勝の実績を持つ。

日本は、クロアチア戦と同じく、GK に岩下、成田と笠原をセンター DF、2 枚目 DF に渡部と吉野、1 枚目 DF に元木と土井を配置した「6-0DF」でゲームスタート。攻撃は、プレーメーカーには東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。この日のベンチアウトは杉岡、中村、出村、部井久となり、吉田が新たにメンバー入りした。

立ち上がり、この日誕生日を迎えた渡部のブレイクスルーにより日本が先制。カタール代表も No.10 Frankis のミドルシュートで得点するも、日本はクイックスタートから元木のサイドシュートで引き離す。成田の速攻も決まり、好スタートと切る。日本は相手のキープレイヤー Frankis を止めにかかるが、相手のコンビネーションプレーから、日本の 3 枚目 DF が対応できずに、シュートを決められるケースが多くなる。前半 8 分で 5 対 5。その後も DF が機能せずに、前半 13 分、8 対 9 の逆転を許したところでタイムアウトを申請。高野と吉田を投入し DF システムを「5-1DF」に変更。DF の立て直しを図る。その後、渡部、吉野、そして、前半 18 分に吉田のポストシュートの 3 連打で逆転。カタールがタイムアウトを申請。笠原が退場して同時に 7MT のチャンスを与えてしまうも、GK 坂井が好セーブ。直後の攻撃で吉田のポストプレーから得た 7MT のチャンスを東江が落ち着いて決めて良い流れを呼び込む。途中出場の水町のリードから吉野のブレイクスルー、東江の 7MT など 1 点リードして前半終了。16 対 15。

ハーフタイムでは、試合前のミーティングでも確認していた、試合の勝敗を分けるポイントである DF について、再度の共通理解を図り、また、後半に向けて新たなプランも共有。後半に臨む。

後半、立ち上がり、坂井のセーブから渡部がノーマークシュートを創出するも決めきれず、直後の 3 次速攻で、またしても Frankis にミドルシュートを決められてしまう。その後も、東江の個人技、徳田廉之介と吉田のコンビネーションなどで、シュートチャンスまでは良い形を作るものの相手 GK (No.13 ABIDI) の好セーブに合い得点が奪えない。その間、後半開始に 5 連取されてしまい 16 対 20 の 4 点差にリードを広げられてしまう。日本はタイムアウトを申請して流れを呼び戻しにかかる。後半 15 分からは、相手の中心選手 Frankis にマンツーマン DF を仕掛け、これが奏功し、土井のサイドシュート、岩下のセーブから成田がボールを運び、笠原のポストシュートで後半 21 分には遂に同点に追いつく。さらには、岩下のセーブから速攻が始まり、東江が持ちこみ、サイドの土井に素晴らしいパスを見せ、それを土井が確実に決めて、27 対 26 の逆転に成功。カタールがタイムアウトを請求。実に日本の 6 連続得点であった。その後、日本は東江のリードから元木が繋いだ土井のノーマークシュートや、元木のサイドシュート、東江の速攻を相手 GK (No.13 ABIDI) が連続セーブ。30 対 29 と再度逆転を許してしまう。後半残り 1 分、徳田廉之介と吉田のコンビネーションから得た 7MT のチャンスを GK (No.12 Saric) にセーブされ万事休す。29 対 31 での敗戦となった。

勝利にはあと一歩届かなかったが、チームの進化が垣間見えた試合でもあった。予選ラウンドは引き続き続き、次のアンゴラ戦（19日）が最終戦になる。メインラウンド進出に向けて最善の準備をして試合に臨みたい。

【彗星ジャパン 世界選手権 第3戦 予選ラウンド 1月19日】

日本代表 30 (16 -12, 14 -17) 29 アンゴラ代表

得点者：笠原 1点、徳田新之助 1点、渡部 7点、土井 4点、元木 5点、玉川 1点、吉野 4点、東江 4点、水町 1点、徳田廉之介 1点、吉田 1点

世界選手権 3 戦目。予選リーグ最終戦。相手はアフリカ代表のアンゴラ代表。高い身体能力を有し、近年急速に力をつけてきているアフリカの新興勢力。勝利か引分けで、日本のメインラウンド進出が決まる。2 年前の世界選手権 2019 で

は 29 対 32 と敗れており、雪辱の一戦となった。

この日、日本は、GK に岩下、トップ DF に東江、笠原をセンター DF、2 枚目 DF に渡部と吉野、1 枚目 DF に元木と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃は、プレーメーカーには東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。この日のベンチアウトは杉岡、坂井、出村、部井久となり、GK 中村が新たにメンバー入りした。

立ち上がり、日本の「5-1DF」の隙を突かれて、アンゴラのステップシュートが決まり先制点を許す。対するアンゴラ代表も戦前の予想通り「5-1DF」の布陣。日本は事前の分析から共通理解を図ったアンゴラ DF の弱点を付くコンビネーションを駆使し、元木のサイドシュートで初得点。試合が動き出す。岩下のセーブから渡部のミドルシュート、東江のインターセプトからそのまま速攻に持ち込み得た 7MT のチャンスを徳田廉之介が一度は GK に阻止されるものの、リバウンドを落ち着いて処理して得点。その後も、吉野がエンptyゴールを決めるなどするものの、アンゴラも引かずに、ディスタンスシュートなどで加点し、両者一步も譲らない展開が続く。前半 13 分、吉田がポストシュートを決め、相手 DF の退場も誘い、日本の数的優位の時間となる。この間に渡部のブレイクスルーなどで得点し、アンゴラを引き離しにかかる。前半 20 分にはコンビネーションから、渡部がミドルシュートを決めて 12 対 11。日本はトップ DF に高野、センター DF に玉川を入れて、DF に変化をつける。それが奏功し、GK との関係性も向上。同時に GK 岩下に好セーブが出始める。攻撃では、吉野のミドルシュート、水町～吉田のホットラインで獲得した 7MT を東江が決める。アンゴラに 7MT のチャンスを与えてしまうが、この日初めてメンバー入りした GK 中村がスーパーセーブを見せる。直後の攻撃では徳田新之助が獲得した 7MT をまたしても東江が決め、さらには、土井がエンptyゴールを決めて、前半終了間際に 4 連取。そのまま 16 対 12 の 4 点リードで終えた。

ハーフタイムでは、アンゴラの「5-1DF」に対する、日本の攻撃のポイントについて、特に効果的なコンビネーションや動き方、ボールの受け方など改めてチーム内で共有し後半に臨む。

後半、立ち上がり、早速、コンビネーションから渡部のブレイクスルーにより得点。直後に東江が退場、7MT のチャンスをアンゴラ代表に与えてしまうも、GK 中村の迫力に押された、No.22 ANTONIO がシュートミス。水町の体を張ったシュートも決まり後半開始で 2 連取。幸先の良いスタートを切る。その後は一進一退の攻防が続き、後半 12 分には、GK 中村のセーブから土井がサイドシュートを決めて 22 対 17 の 5 点リードとする。アンゴラも高い身体能力を武器に巻き返しを狙ってくるが、後半 17 分過ぎには、渡部と土井のスカイプレーが決まり、その直後には GK 中村の好セーブから玉川が速攻で決めて、25 対 20 の再び 5 点差。このまま、順調に得点を重ねていきたい日本であったが、アンゴラに 3 連取され、日本はタイムアウトを請求。アンゴラに傾きかけた流れを呼び戻しにかかる。吉野がディスタンスシュートを決めて、流れを断ち切ったかに思えたが、後半残り 5 分で相手のポストプレーなどで 27 対 28 と逆転を許してしまう。過去、同様のケースではこのまま引き離されるケースが散見されたが、経験値も上がり精神的にも強固になった日本は 7 人攻撃を仕掛けて勝負に出る。岩下のファインセーブから元木と土井のサイドシュート、東江の個人技で 3 連取。30 対 28 と再度逆転に成功する。タイムアウト中には、引き分けでもメインラウンドに進出することの共通理解を再度図り、試合はそのまま 30 対 29 で終了。メインラウンド進出を決めた。なお、この日の試合の MVP にはチーム最多の 7 点を挙げた渡部が選ばれた。

日本の予選突破は 1997 年の世界選手権（熊本大会）以来、実に 24 年ぶり 2 度目。予選ラウンドでの獲得ポイント「1」を持って、メインラウンドに進出するのは史上初である。メインラウンドでは同グループのクロアチア、カタルと共に、D グループを勝ち上がったデンマーク、アルゼンチン、バーレーンと対戦する。アンゴラ代表には 2 年越しの勝利となり、雪辱を果たした結果となったが、オリンピック出場権を既に獲得している更なる強豪国（デンマーク、アルゼンチン、バーレーン）が待ち受けているメインラウンドに向けて、最高のパフォーマンスが発揮できるように今から準備をしていきたい。

【彗星ジャパン 世界選手権 第 4 戦 メインラウンド 1 月 21 日】

日本代表 24 (13 -17 ,11 -11) 28 アルゼンチン代表

得点者：渡部 1 点、土井 2 点、元木 5 点、吉野 6 点、東江 3 点、水町 1 点、徳田廉之介 2 点、吉田 4 点

世界選手権、メインラウンド 1 戦目。1997 年の世界選手権（熊本大会）以来、実に 24 年ぶり 2 度目のメインラウンドに臨む日本代表。予選リーグの舞台であったアレキサンドリアから昨日カイロに移動。メインラウンド初戦の相手は中

南米選手権 2020 チャンピオンであり、東京オリンピック出場権も獲得している強豪アルゼンチン代表。Simonet3 兄弟を中心に、多くの選手がスペインリーグを中心に欧州リーグに所属し、中でも、2017 年「EHF チャンピオンズリーグ」の MVP、Diego Simonet (Montpellier) がキープレーヤー。監督は、スペイン代表監督経験もあるベテラン監督の Manolo Cadenas (現在 Ademar Leon 監督も兼任)。

この日、日本の攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。守備は、GK に岩下、成田と笠原をセンター DF、2 枚目 DF に渡部と東江、1 枚目 DF に元木と土井を配置した「6-0DF」でゲームスタート。この日のベンチアウトは杉岡、坂井、出村、部井久。

立ち上がり、日本は積極的にシュートを狙うも、なかなか得点を奪えない苦しい時間帯が続く。前半 3 分に吉野がフェイントからシュートを決めて初得点。対するアルゼンチンも No.6 Diego Simonet を中心に攻撃を組み立て、得点を重ねていく。前半 7 分過ぎに吉野が退場。苦しい時間帯は続き、前半 10 分、2 対 6 となったところでタイムアウトを請求。攻撃の立て直しを図る。直後にコンビネーションから吉野のディスタンスシュートが決まり流れを呼び込む。その後も吉野がブレイクスルー、岩下の好セーブからまたしても吉野が速攻で決めて 3 連続得点。そのまま勢いに乗りたいたころであったが、テクニカルミスが発生させてしまい、またしても得点が伸び悩む。その間にアルゼンチンは Simonet 兄弟を軸に得点を重ねていく。水町のブレイクスルーで得た 7MT のチャンスも、シュートを外してしまい、また、数的優位の機会も、ラインプレーヤーへのパスがインターセプトされるなど、なかなかリズムを作れない。日本は GK 岩下に変えて中村を投入。その中村の好セーブから三次速攻を仕掛け、東江が決めるなどして前半 27 分には 12 対 14 の 2 点差まで追いつく。しかし、その後もミスが発生させてしまい、13 対 17 の 4 点差リードを許して前半終了。

ハーフタイムでは、主に攻撃について、試合前のミーティングやトレーニングでシミュレーションしてきた内容を再度確認。テクニカルエラーを少なくし、得点力を伸ばして相手の速攻を止める意識を高めた。

後半、日本のセンター DF が消極的になったところをベテランの No.3 Federico Pizarro にディスタンスシュートを決められ、先制点を許してしまう。直後に日本はこの大会初出場となる北詰を投入し、新しいリズムを作る。GK 中村の好セーブから、北詰～吉田、さらには東江～吉田のポストプレーで得点。吉田はそのままセンター DF に入り攻守の中心となる。その後も Simonet 兄弟を中心としたアルゼンチンの攻撃に苦慮するも、日本は中村の好セーブや土井のサイドシュート 2 連続得点、元木の 7MT、吉田のポストシュートなどで意地を見せる。しかし、結局、後半を同点とするも点差は縮まらずに試合終了。24 対 28。

東京オリンピックでも対戦する可能性のある、中南米チャンピオンのアルゼンチン代表に対して、失点を 30 点以下に抑えたものの、要所でのミスが重なり敗戦となった。明後日・23 日には前回の世界選手権チャンピオンであり、リオデジャネイロ・オリンピック金メダルのデンマーク代表との一戦を控える。次戦まで残りの時間、リカバリー、リフレッシュ、リラックス、の時間に多くを割いて、万全のコンディションでデンマーク戦に臨みたい。

【彗星ジャパン 世界選手権 第 5 戦 メインラウンド 1 月 23 日】

日本代表 27 (17 -19, 10 -15) 34 デンマーク代表

得点者:杉岡 2 点、笠原 2 点、成田 2 点、徳田新之助 2 点、渡部 1 点、玉川 1 点、吉野 3 点、東江 7 点、出村 2 点、水町 3 点、徳田廉之介 1 点、吉田 1 点

世界選手権、メインラウンド 2 戦目。1997 年の世界選手権 (熊本大会) 以来、実に 24 年ぶり 2 度目のメインラウンドに臨む日本代表。相手はリオデジャネイロ・オリンピック金メダル、世界選手権 2019 金メダルであり、東京オリンピック出場権も獲得しているデンマーク代表。ドイツ、フランス、スペインを中心に欧州主要リーグのトップクラブでプレーするスター選手を数多く揃え、名実ともに世界一の強豪国。監督は、世界選手権 2019 で同チームを金メダルに導き、過去には Rhein-Neckar Löwen を率いてドイツブンデスリーガ 2 連覇を達成したこともある Nikolaj Jacobsen。

この日、日本の攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、この日再びメンバー入りした出村が右サイドに、高野が左サイド、ポストに笠原の布陣。守備は、GK に中村、成田と笠原をセンター DF、2 枚目 DF に渡部と高野、1 枚目 DF に吉野と出村を配置した「6-0DF」でゲームスタート。この大会は試合毎に 16 名のベンチ入りメンバーを選べる為、この日のベンチアウトはこれまでのプレー時間が長くなった土井、元木、岩下をメンバーから外して、代わりに、フレッシュな杉岡、出村、坂井をメンバー登録。キャプテンは渡部が務める。

立ち上がり、日本はコンビネーションから笠原のポストシュートで先制点。その後も、日本も GK 中村の好セーブから

速攻で吉野、成田の速攻、笠原のポストシュートなどで、得点を重ねる。事前の分析通り、デンマーク DF の弱点を突くコンビネーションからシュートまで到達するも、現在最高の GK と言われる、No1. Niklas Landin (THW Kiel) にシュートをセーブされるケースが多くなる。対するデンマーク代表は、クイックスタートを含む速攻を中心に攻め、セットオフセンスでは優位な体格を駆使して「プラス1」の状態を創出し、No.4 Magnus Landin (THW Kiel)、No.17. Lasse Svan (SG Flensburg) のサイドシュートなど基本に忠実なプレーで得点を重ねていく。日本も必死に食い下がり、東江の7MTや水町のブレイクスルー、GK 中村のセーブ、玉川のポストシュートなどでデンマークに引き離されない。出村のインターセプトから速攻で前半 23 分には 1 点差まで詰め寄る。さらには、北詰のリードからのコンビネーションで杉岡のサイドシュートも決まり、そのまま良い流れに乗りたいたところであったが、日本の DF が機能して速攻に行きたいところを、No1. Niklas Landin (THW Kiel) にインターセプトされるなどしてリズムに乗れない。しかし、日本は GK 中村のファインセーブもあり、試合はそのまま 17 対 19 で前半終了。

ハーフタイムでは、主にディフェンスについて、体格に勝る相手をチーム全体で組織的に守ること、また、攻撃では、前半に効果的であったコンビネーションについての確認と継続徹底を図り、後半に臨む。

後半、日本は GK を坂井に変えてスタート。ディフェンスから速攻に結びつけたいところであったが、速攻の展開中にテクニカルミスが発生させてしまいチャンスを得点に結びつけられない。また、前半同様にシュートシーンは創出するも、相手 GK の No1. Niklas Landin (THW Kiel) にセーブされ、点差を縮めることが出来ない。それでも GK 坂井のファインセーブもあり、日本は攻守両面で崩れることはなく、苦しい時間帯を凌いでいく。後半 10 分で 22 対 24。その後、退場者も出してしまい、徐々に引き離されていく。しかし、日本は後半残り 10 分のところでタイムアウトを請求して、以後 7 人攻撃を仕掛ける。それが奏功し、杉岡のサイドシュート、水町、徳田新之助のブレイクスルー、吉田のポストシュートで得点を重ねて粘りを見せるものの、デンマークも No.22 Mads Mensah (SG Flensburg) や No.28 Lasse Andersson (Füchse Berlin) のパワープレーで得点し、27 対 34 で試合終了。

前回大会の覇者・デンマークへの挑戦であったが、パワーに勝る相手に対して DF で劣勢を強いられ、退場者も重なり敗戦となった。しかし、日本 GK 陣の奮闘もあり、また、攻撃面でも事前の分析で得た知見をミーティングとトレーニングで確認し、実践することが出来た。さらには、全メンバー 16 名でプレータイムをシェアしつつ、体力的な問題を抱える事なく、なおかつ、プレーの質を落とさずに 60 分間、世界王者相手にプレーできたことは、選手層が厚くなりつつあることを証明できたのではないかと感じる。次戦、アジア王者で、既に東京オリンピック出場を決めているバーレーン代表との最終戦。残された時間をリカバリー、リフレッシュ、リラックス、の時間に多くを割いて、コンディショニングを整えて臨み、最終戦を勝利で終えて大会を閉じたい。

【彗星ジャパン 世界選手権 第6戦 メインラウンド 1月25日】

日本代表 29 (19 -12, 10 -13) 25 バーレーン代表

得点者：成田 2 点、渡部 8 点、土井 1 点、元木 5 点、吉野 9 点、東江 1 点、水町 1 点、吉田 2 点

世界選手権、メインラウンド最終戦。今大会のラストゲーム。相手はアジア大陸チャンピオンとして既に東京オリンピック出場権も獲得しているバーレーン代表。昨年のアジア選手権では 2 戦 2 勝だが、ダグル・シグルドソン監督就任後では 2 勝 3 敗と、まだ負け越しているアジアを代表する強豪国。この 3 年間で 6 戦目となるバーレーンに勝って有終の美を飾りたいところ。監督はともにアイスランド人同士の対戦。

この日、日本の攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木が右サイド、土井が左サイド、ポストに笠原の布陣。守備は、GK に岩下、成田と笠原をセンター DF、2 枚目 DF に渡部と吉野、1 枚目 DF に元木と土井を配置した「6-0DF」でゲームスタート。

一昨日のデンマーク戦ではベンチアウトであった土井と元木、岩下が登録メンバーに復帰して、代わりに、杉岡、徳田、中村、部井久がメンバー外となった。

立ち上がり、日本は相手の「5-1DF」に対するコンビネーションから渡部のブレイクスルーで先制点。その後も、テクニカルエラーからの逆速攻を許すも、日本はコンビネーションから吉野のディスタンスシュート、渡部のステップシュートで巻き返す。4 対 4 で迎えた前半 7 分、岩下のファインセーブから成田の速攻でバーレーンが退場者を出す。このチャンスを東江が 7MT を落ち着いて決める。日本は数的優位の時間を効果的に活用し、渡部のブレイクスルー、元木のインターセプトから 1 次速攻、土井のサイドシュート、岩下の好セーブなどで、流れを引き寄せ、このチャンスをすかさず掴

んだ日本は確実にリードを広げていく。DFも機能し始め、事前の分析結果からチームミーティングを通して共有した内容を的確に各自が実行していく。19分には、渡部のブレイクスルー、この日好調の岩下（セーブ率40%）のファインセーブから吉野の速攻・成田の速攻の3連続得点で13対7とした日本。バーレーンもオリンピックアジア大陸予選覇者の意地を見せ、No.99 Husain Alsayyadを中心に攻撃を試みるが、GK岩下が再三の好守を見せるなど日本の「6-0DF」を崩せない。前半終了間際にバーレーンはDFシステムを「5-1DF」に変更するも、日本に傾いた流れを帰ることはできず、日本が19対12と大差で前半を折り返す。

ハーフタイムでは速攻の走り方やボールの繋ぎ方、バーレーンのコンビネーションプレーに対するDF面での修正ポイントを確認。


後半、両チームGKの好セーブもあり、一進一退の時間が続く。日本は退場者を出し、苦しい時間帯が続くも、この日のMVPに選ばれた吉野の活躍で得点を重ねていく。テクニカルエラーが続き、得点を奪えない時間も他の要素（DFやBC、GK）で奮闘を見せ相手をリズムに乗せない。元木のサイドシュートや吉田のポストシュートなどでリードを保ちつつ、新規メンバーを入れ替えて対応する日本は、残り5分でバーレーンに3連続得点を許すが、そのまま危なげなく勝ち切り29対25で勝利。大会の有終の美を飾り大会を終えた。この試合のMVPには9得点、ゴール決定率90%の活躍を見せた吉野が選ばれた。東京オリンピックでも対戦する可能性のあるバーレーンに快勝し、メインラウンド初勝利を挙げて今大会を終えた。

日本のメインラウンドでの勝利は史上初。今大会、欧州の強豪国に迫る戦いぶりで、確実に成長した姿は日本をはじめ、世界に向けて発信できたと感じる。2019年1月に行われた前回大会では7戦全敗に終わり出場24チーム中（当時）唯一白星なしの最下位。そこからもう一度初心に帰り心身を鍛え直して臨んだ今大会で、確かな成長の跡を刻むことができた。このまま歩みを止めることなく、さらに前進していきたい。

所感

「日本代表(彗星ジャパン)」は、新型コロナウイルスの世界的蔓延の影響により、約1年ぶりの実戦の機会を得ました。現状、今までのような欧州遠征を重ねて強豪国とのトレーニングマッチを数多く実施する強化策や、長身の外国人ゲストプレーヤーを練習パートナーとして海外から招くことは困難な状況であり、一抹の不安を抱えての強化活動の再スタートとなりましたが、合宿の日数を重ねることにチームは進化を見せ、本大会では、1997年の世界選手権（熊本大会）以来、実に24年ぶり2度目の予選ラウンド突破。また、メインラウンドでは史上初の勝利をあげることができました。チームの活動の様子は、今回チームスタッフとして帯同した田口有史氏（広報担当）の素晴らしい写真や動画、インタビュー素材のおかげで、今までにない量と質で発信することができ、日本のファンの皆様や国内外のメディアにも広く注目していただける大会になったと感じます。

最後に、大会期間中、日本において我々日本代表を応援して下さった皆様、更には日本代表活動をご支援いただいた関係する全ての皆様はこの紙面をお借りして御礼申し上げます。取り急ぎ甚だ簡単ではありますが、以上今大会のご報告とさせていただきます。大変お世話になりました。有難うございました




レオピン
60年
おかげさまで誕生60年

熟成ニンニク抽出液・
ビタミン配合*

湧永製薬株式会社

第3類医薬品
キョーレオピンw
・滋養強壮・虚弱体質




液剤タイプ（カプセル付き）
※ビタミンとしてビタミンB1・ビオチン配合

いつも笑顔で、元気な毎日：
皆様の「元気」を、
キョーレオピンが応援します

熟成ニンニク
抽出液

研究を重ねて60年

第3類医薬品
キョーレオピンキャプレットS
・滋養強壮
・虚弱体質



小粒な錠剤タイプ（当社製品比較）
※ビタミンとしてビタミンB1・B12配合

- 朝起きるのがつらい
- 忙しくて休めない
- 風邪をひきやすい
- 体力が落ちてしまった

お客様相談窓口 **0570-666-170**

第27回男子世界選手権

予選ラウンド：クロアチア戦



予選ラウンド：カタール戦



第27回男子世界選手権

予選ラウンド：アンゴラ戦



メインラウンド：アルゼンチン戦



第27回男子世界選手権

メインラウンド：デンマーク戦



メインラウンド：バーレーン戦



男子世界選手権対戦履歴 (通算成績 19勝59敗3分)

回数	開催年月日	開催地	参加国数	日本順位	優勝	予選リーグ・一次リーグ等			決勝T・決勝リーグ・二次リーグ等		
4	1961/3/1-12	西ドイツ	12	12位 (0勝2敗)	ルーマニア	勝敗	対戦国	スコア			
						x	チェコ	10-38			
						x	ルーマニア	11-29			
5	1964/3/6-15	チェコスロバキア	16	11位 (1勝2敗)	ルーマニア	勝敗	対戦国	スコア			
						○	ノルウェー	18-14			
						x	ソ連	10-40			
						x	ルーマニア	12-36			
6	1967/1/12-21	スウェーデン	16	11位 (1勝2敗)	チェコスロバキア	勝敗	対戦国	スコア			
						x	ハンガリー	25-30			
						x	西ドイツ	27-38			
						○	ノルウェー	21-17			
7	1970/2/26-3/8	フランス	16	10位 (3勝2敗1分)	ルーマニア	勝敗	対戦国	スコア	9-12位決定リーグ		
						x	チェコ	9-19	○	アイスランド	20-19
						△	ユーゴスラビア	17-17	○	フランス	22-13
						○	アメリカ	21-15	x	ソビエト	12-27
8	1974/2/28-3/10	東ドイツ	16	12位 (1勝5敗)	ルーマニア	勝敗	対戦国	スコア	9-12位決定リーグ		
						x	東ドイツ	16-31	x	ブルガリア	22-23
						x	ソビエト	18-25	x	西ドイツ	24-30
						○	アメリカ	29-18	x	スウェーデン	21-28
9	1978/1/26-2/5	デンマーク	16	12位 (1勝4敗1分)	西ドイツ	勝敗	対戦国	スコア	9-12位決定リーグ		
						x	ポーランド	21-26	x	スペイン	15-26
						x	スウェーデン	20-24	x	ハンガリー	26-30
						○	ブルガリア	23-20	△	チェコ	25-25
10	1982/2/23-3/7	西ドイツ	16	14位 (2勝4敗)	ソ連	勝敗	対戦国	スコア	13-16位決定リーグ		
						x	西ドイツ	18-28	x	キューバ	20-25
						x	ポーランド	19-28	○	クエート	31-20
						x	スイス	15-18	○	アルジェリア	22-21
12	1990/2/28-3/10	チェコスロバキア	16	15位 (1勝5敗)	スウェーデン	勝敗	対戦国	スコア	13-16位決定リーグ		
						x	東ドイツ	22-26	x	スイス	12-22
						x	ソ連	16-35	○	アルジェリア	21-20
						x	ポーランド	17-25	x	キューバ	20-23
14	1995/5/7-21	アイスランド	24	23位 (0勝5敗)	フランス	勝敗	対戦国	スコア			
						x	フランス	20-33			
						x	ドイツ	19-30			
						x	アルジェリア	18-20			
						x	ルーマニア	22-31			
						x	デンマーク	21-36			
15	1997/4/17-5/1	日本・熊本	24	15位 (2勝4敗)	ロシア	勝敗	対戦国	スコア	決勝トーナメント		
						x	アイスランド	20-24	x	フランス	21-22
						x	ユーゴスラビア	19-22			
						○	サウジアラビア	23-20			
						○	アルジェリア	24-14			
						x	リトアニア	15-24			
19	2005/1/23-2/6	チュニジア	24	16位 (2勝3敗)	スペイン	勝敗	対戦国	スコア			
						x	スペイン	22-41			
						x	クロアチア	25-34			
						○	アルゼンチン	27-25			
						x	スウェーデン	18-32			
						○	オーストラリア	29-19			
22	2011/1/13-30	スウェーデン	24	16位 (2勝5敗)	フランス	勝敗	対戦国	スコア	13-16位決定トーナメント		
						x	ノルウェー	29-35	x	エジプト	28-34
						○	オーストリア	33-30	x	アルジェリア	24-29
						x	アイスランド	22-36			
						x	ハンガリー	24-28			
						○	ブラジル	33-32			
25	2017/1/11-29	フランス	24	22位 (1勝6敗)	フランス	勝敗	対戦国	スコア	21-24位決定トーナメント		
						x	ロシア	29-39	○	アンゴラ	37-26
						x	フランス	19-31	x	チリ	29-35
						x	ブラジル	24-27			
						x	ポーランド	25-26			
						x	ノルウェー	23-38			
26	2019/1/10-27	デンマーク/ドイツ	24	24位 (0勝7敗)	デンマーク	勝敗	対戦国	スコア	21-24位決定トーナメント		
						x	マケドニア	29-38	x	統一コリア	25-27
						x	クロアチア	27-35	x	アンゴラ	29-32
						x	スペイン	22-26			
						x	アイスランド	21-25			
						x	バーレーン	22-23			
27	2021/1/13-31	エジプト	32	19位 (2勝3敗1分)	デンマーク	勝敗	対戦国	スコア	メインラウンド(2次リーグ)		
						△	クロアチア	29-29	x	アルゼンチン	24-28
						x	カタール	29-31	x	デンマーク	27-34
						○	アンゴラ	30-29	○	バーレーン	29-25

2021エジプト男子世界選手権帯同メディカル報告

帯同ドクター 沖本 信和

帯同トレーナー 飯田 純一郎 事柴 壮武

国内合宿、エジプト合宿、世界選手権に対して、1、COVID19 対策 2、アンチドーピング 3、疾病 4、傷害の4点を軸に報告いたします。

従来と異なるのは、COVID19によって、2020年4月以降に、ナショナル活動が休止されていたことである。もちろん合宿だけでなく、国際試合も全く無かった。

多くの方々の地道な準備をしたことで、11月に最初の強化合宿を行った。移動に細心の注意を払い、集合時、合宿途中など、PCR検査を全員に施行し、施設内消毒、換気、3密回避、うがい、手洗い、消毒など徹底した環境で合宿がスタートした。食堂利用についても従来とは大きく異なり、感染対策が徹底されている。

こうした環境下で、12/14よりANTCにて2020年度2回目の国内合宿開始（そのまま世界選手権へ）。集合時にPCR検査施行し、全員陰性を確認したのち、施設利用を開始した。11月合宿の2週間以上前からSNSを利用した連日の体温報告体調管理を徹底して行い、チームとして継続した健康管理を行って来た。アンチドーピング、薬剤、サプリメントの徹底管理も並行して行うことができた。

12/22に2回目のPCR検査施行。全員陰性であった。

12/31に出国72時間前の3回目PCR検査陰性を持って、

1/2成田空港出発。

合宿期間中、外傷や傷害により選手の入替えも行われた。本大会前の合宿は体調管理、アスレティックコンディショニングに重要な期間である。実際に中心選手数名は、外傷・傷害でコンディショニング調整が大変であったが、多くの協力を得て、無事に世界選手権での活躍につながった。トレーナー2人体制で充実したケアができていたことはそのまま継続したい。また、JISSの存在にて、必要検査・治療が行えることは有用である。祝祭日に外傷を負った選手については日本大学板橋病院整形外科のご厚意で、夜間救急検査・処置をしていただくことができた。整形外科主任教授より東京オリンピックまでの応援を約束していただけたことは幸いであった。祝祭日・夜間救急に関して担保ができそうである、とても有難い。予測していた合宿中の抜き打ちドーピング検査は無かった。

1/3ドバイ経由でエジプトカイロ空港到着。空港から世界選手権のCOVID19対策の柱である”バブル”状態が形成された。”バブル”とは世界選手権関係者だけを一つの集団として、外界と隔離し、いわゆる一つの泡に包み込むことを意味する。一般客とは別に飛行機後方タラップから降りてそのまま大会バスに移動した。そのバスの中で、抗原検査を行い、全員陰性を確認し、ホテルへと移動。ホテルでも、完全に外界と隔離した環境で、PCR（鼻と咽頭からの2回検査で、大会終了まで継続、結構な身体的負担であった。）検査を行い、結果判明まで各自室内で、運ばれてくる食事や水で生活した。陰性結果報告後に、自室を出ることが許可され、チーム活動が再開された。

1/4 PCR検査 トレーニング（バスの移動、バス内、トレーニング会場もすべてバブル形成で外界と隔離状態である。その後、連日のトレーニングもしくは試合が行われた。

以下、移動、国際試合、PCR検査の日程を中心に記載します。

1/5 エジプト代表と国際親善Aマッチ施行。

1/6 PCR検査 トレーニング

1/7 エジプト代表と国際親善Aマッチ施行。

1/9 PCR検査 トレーニング



写真1 鼻からのPCR検査

1/10 練習中にキープレイヤーとなるべく選手が左手打撲により第 2.3 中手骨骨折受傷。ホテル内に簡易 XP 装置あり、診断し、ギプス固定を行った。COVID19 環境下で、救急病院を利用することはバブルから外に出ることになり、極めて危険な状況であり、ホテル内での簡易 XP 装置は大変有難かった。しかしながら、好調な選手が戦線離脱することはチームにとって大きな痛手であった。一方で、この選手は、広報カメラマンの田口さんとともに、試合前に SNS を駆使し、国内と連絡を取りつつ、モチベーションビデオを作成し、チームすべてに大きな活力を引き出したことは本大会の好結果を導いた大きな要因であった。

1/11 カイロから世界選手権試合会場アレクサンドリアに移動。到着直後にホテルで PCR 検査。

1/13 PCR 検査（エジプトにて 6 回目） 世界選手権開幕

1/14 同じホテルを利用するスロベニア選手 2 名に PCR 陽性反応、さらに現地スタッフの陽性反応との連絡があった。他の 3 会場のホテルでもほぼ同様の結果であったと聞いた。完全なバブルを形成するために、1/15 以降は毎日 PCR 検査を行うと通達があった。PCR 検査を毎日行うことで、日本チームだけでなく、他のバブル内に存在する人々に対する不安感が払しょくできたことは良かったと思える。検査結果については相変わらず、翌日 17:00 頃の結果口頭報告のまま、大会最後まで続いた。

＊＊ベンチ入り選手登録に関して、時間規制があるので、本来であれば、検査数時間後には結果報告が望ましかったと思われた。連日多数の検査で、致し方なかったのかもしれない。また、文章での通達が望ましかったがすべて口頭であり、改善されなかった。以上、2 点が今後の課題と思われた。＊＊

1/15 クロアチア戦後 ホテルにて PCR 検査

1/16 PCR 検査

1/17 カタール戦後 ホテルにて PCR 検査

1/18 PCR 検査（エジプトにて 10 回目）

1/19 アンゴラ戦後 ホテルにて PCR 検査

1/20 カイロホテルに移動し、PCR 検査

1/21 アルゼンチン戦後 ホテルにて PCR 検査

1/22 PCR 検査

1/23 デンマーク戦後 ホテルにて PCR 検査 ゲーム終了後 1 名ドーピング検査施行。問題なく終了。合宿前から、服薬、サプリメント、体調管理ができていたので、不安要素は全く無しであった。ゲーム終了が 23:00 であったため、ホテル帰宅は 0:30 であった（早い方である）。

1/24 PCR 検査（エジプトにて 16 回目、この検査結果が出国 72 時間前の検査となった。ダグル監督、アンテックコーチ、徳田廉之介選手、吉田選手は翌日の 48 時間前出国検査が必要で 1/25 計 17 回目のエジプトでの PCR 検査施行。）

1/25 バーレン戦にて全試合終了。ゲーム終了後 1 名ドーピング検査施行。問題なく終了。



写真2 バス移動時に行われる、手荷物消毒。



写真3 食事前の、検温・手指アルコール消毒



写真4 バスの消毒

エジプト到着3日目に日本チームから1名が、発熱、嘔気などの症状を呈しました。直ちに、ホテル常駐大会ドクターと連絡を取り、いわゆる胃腸炎症状ということで、別室に隔離し、PCR検査陰性を持って、復帰しました。COVID19環境下でのコロナ類似症状を呈した場合の対応は今後にも役に立つものでした。

10年前にエジプト遠征の際に、多くの胃腸炎、下痢症状の選手が多発しました。この経験を教訓に、生野菜、カットフルーツ、水（歯磨きですら）に注意を払ってきました。頻回な検温・アルコール消毒を撤退し、結果的に軽度の胃痛、腹痛、下痢症状を数名の選手が訴えたが、早急に対処し、問題なく、トレーニング、試合に臨むことができました。一方で、デンマークやスロベニアはじめ、いくつかのチームでは食中毒様症状で戦線離脱したトップ選手やスタッフが多く出たことが話題になっていました。その意味では日本チームの対応は適切であったと自負しています。

COVID19環境下で十分なトレーニングや体調管理が行えないまま、多くの選手が傷害を抱えて、本大会に臨んだと思われませんが、各所属チームでの事前の健康管理、代表トレーナー2名の管理などで、無事に大会を終えることができました。頸部腫瘍自壊で簡易手術を要した選手や、数本の関節内、ブロック注射などを必要とした数名の選手もいましたが、選手全員が、メンタル強化の成果も現れ、良い流れで全日程を終了することができました。

1/26 カイロ出発

1/27 夕刻成田空港到着 空港検疫にてPCR検査施行。全員陰性にて入国。バスで成田のホテルに移動。

1/28 朝 唾液採取し、PCR検査（全員陰性）。公共機関を使用せず、貸し切りバス・ハイヤーなどで自宅、合宿所へ移動した。

2/1.3.8 各自PCR検査施行。いずれもすべて陰性であった。

我々日本チームは、すべてのPCR検査を陰性で終えることができた。この経験を活かして、今後もCOVID19対策を維持して行きたい。

〈謝辞〉

選手全員を学生時代から良く知っていたこと、傷害の状況も把握できていたことや、メディカルスタッフの飯田・事柴両トレーナーと一丸と成れたことがとてもプラスでした。

また、毎回のことながら国際大会の様々な手続きにご尽力いただいた清水さん、横山さん、床尾さん、NTCの河上さんをはじめとした多くの日本協会関係各位の方々ならびにJISS中嶋先生はじめとした多くのドクター、トレーナー、関係各位、医療物品を準備して下さった上東先生に深謝申し上げます。

ファミリーとして戦ってきた田口団長、ダグル監督、舍利弗・アンテック・北林コーチ、吉村分析スタッフ、田口カメラマン、飯田・事柴トレーナー、一緒に戦った選手達、骨折や怪我でコートに立てなかった選手達、選考過程で外れた選手達に敬意を払います。

そして、いままで日本ハンドボールに携わって来られた多くの役員、代表スタッフ、ファンの尽力に深謝するとともに、全日本男子ハンドボールチームが皆様の期待に応えられるように、チームとして苦難を乗り越えて明るい結果と未来を切り開くよう、東京オリンピックに向けて今後も精進いたします！

	<p>好評発売中 ハンドボールスキルアップシリーズ</p> <p>目からウロコの ポジション別上達術</p> <p>スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著</p> <p>B5判 188ページ 1,800円+税 発行元 グローバル教育出版</p> <p>バックコート、サイド、ポストの3ポジションについて、それぞれの役割、求められる能力などをわかりやすく解説しているコートプレイヤー必読の一冊です。</p>	<p>既刊</p> <p>目からウロコのDF戦術 1,800円+税</p>
<p>株式会社スポーツイベント TEL:03-3253-5941 ご注文はオンラインショップから→http://sportsevent.shop-pro.jp/</p>		



FIND YOUR WINNING COLOR

ジブンの勝ち色を見つけよう



NEW

アシックス イージーオーダーシステム

約**330億**通り

こだわりの
一足を作ろう!

HANDBALL SHOES
EASY ORDER SYSTEM



2020東京オリンピック出場12カ国(男子)

6カ国が決定済み、残りの6カ国は3月12日から14日まで開催の世界最終予選で決定

	日程	開催国	枠数	出場権獲得
開催国	2013年9月	-	1	日本
2019 世界選手権	2019年1月	デンマーク・ドイツ	1	デンマーク
欧州選手権	2020年1月	オーストリア・ ノルウェー・デンマーク	1	スペイン
アジア予選	2019年10月	カタール	1	バーレーン
アフリカ選手権	2020年1月	チュニジア	1	エジプト
パンアメリカン大会	2019年7月	ペルー	1	アルゼンチン
世界最終予選(各T:上位2カ国が出場権を得る) T1: ノルウェー・ブラジル・チリ・韓国 T2: フランス・クロアチア・チュニジア・ポルトガル T3: ドイツ・スウェーデン・スロベニア・アルジェリア	2021年3月	ノルウェー	2	
		フランス	2	
		ドイツ	2	
計			12	

2020東京オリンピック出場12カ国(女子)

6カ国が決定済み、残りの6カ国は3月19日から21日まで開催の世界最終予選で決定

女子	日程	開催国	枠数	出場権獲得
開催国	2013年9月	-	1	日本
2019 世界選手権	2019年11月	日本・熊本	1	オランダ
欧州選手権	2018年11月	フランス	1	フランス
アジア予選	2019年9月	中国	1	韓国
アフリカ選手権	2019年9月	セネガル	1	アンゴラ
パンアメリカン大会	2019年7月	ペルー	1	ブラジル
世界最終予選(各T:上位2カ国が出場権を得る) T1: スペイン・スウェーデン・セネガル・アルゼンチン T2: ロシア・セルビア・中国・ハンガリー T3: ノルウェー・モンテネグロ・ルーマニア・カザフスタン	2021年3月	スペイン	2	
		ハンガリー	2	
		モンテネグロ	2	
計			12	

体育授業におけるハンドボールの現在

日本体育大学大学院 体育科学研究科 博士後期課程 奥村 拓朗



1. 体育授業におけるハンドボールの立ち位置

現在、小中高校の体育授業で実施される球技・ボール運動系は、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」の3つの種目群（型）に分類されて学習指導要領に示されており、各学校は種目群から種目を選択して実施することになっています。これは、ゲーム中に発揮される戦術的な能力の転移を前提としたカリキュラム構成と言えます。ハンドボールは「ゴール型」に位置づく種目です。そのため、体育授業においてハンドボールを実施する際には、ハンドボール固有の知識や技能を中心に置くのではなく、他の「ゴール型」種目にも転移可能な概念を中心に扱うことで、一貫したカリキュラムの整合性を保持できると考えられます。

2. 学習指導要領で求められるゲーム修正

授業ではゲーム中に技能を習得・発揮しやすいようにゲームを「修正」することが求められています。小学校学習指導要領解説では次のように記されています。

「易しいゲームとは、ゲームを児童の発達の段階を踏まえて、基本的なボール操作で行え、プレイヤーの人数（プレイヤーの人数を少なくしたり、攻める側のプレイヤーの人数が守る側のプレイヤーの人数を上回るようにしたりすること）、コート（奥行きや横幅など）、ネットの高さ、塁間の距離、プレイ上の緩和や制限（攻める側のプレイ空間、触球方法の緩和や守る側のプレイ空間、身体接触の回避、触球方法の制限など）、ボールその他の運動用具や設備などを修正し、児童が取り組みやすいように工夫したゲームをいう。」

また、新しい学習指導要領では、高校でもゲーム修正が求められるようになりました。平成21年の学習指導要領解説では一般的なルールを取り上げることのみが書かれていましたが、平成30年の学習指導要領解説では、一般的なルールのほかに、参加者に応じてルールを工夫することが記載されました。

平成21年 高等学校学習指導要領解説保健体育編

「運動種目を取り上げる際は、学習の最終段階であることを踏まえて、卒業後も継続できるよう生涯スポーツの場面で運用される一般的なルールを取り上げる」

平成30年 高等学校学習指導要領解説保健体育編

「運動種目を取り上げる際は、学習の最終段階であることを踏まえて、卒業後も継続できるよう、生涯スポーツの場面で運用される一般的なルールを取り上げたり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別、障害の有無等に応じてルールを工夫したりする」

このように高校でもゲーム修正が求められるようになった背景には、共生社会の実現に向けた学校教育全体での取り組みがあります。体育科・保健体育科においても、授業に参加するすべての児童生徒が生涯スポーツにアクセスできる資質・能力を育むことが求められると同時に、卒業後の生涯スポーツの多様性を認める趣旨が汲み取れます。

3. 授業実践紹介

私は体育科教育学の分野で、体育授業で実施されるゲームにおける学習評価、その中でもゲーム中のパフォーマンス発揮を専門に研究をしています。私が昨年執筆した論文では、体育授業のハンドボールを対象に研究を実施しました（奥村・岡出、2020）。ハンドボールを含む「ゴール型」の種目は、授業外での経験を有する児童生徒も多く、技能の低い児童生徒がゲームに実質的に参加できないことも多いと言われます。そこで、この授業では、特に課題を抱えやすい攻撃が易くなるルールをいくつか加えました。1チームあたりの人数を減らすとともに、タスキをかけた守備1名が自陣に戻れないこととし、フロントコートでは攻撃が有利な人数条件となるようにしました。また、ゴールは台形型のものを使用し、角度のないところからでもシュートが決まりやすくなるようにしました。その結果、8時間の単元の中で、特別な支援を要する児童も含むすべての児童が、1回以上のシュートを経験することができました。

一方、このようなルールにも関わらず、シュート回数の個人差は依然として大きいままでした。競技で実施されるハン

ドボールであれば、ポジションによってシュート回数にばらつきが出るのは当然と考えられるかと思いますが、一方、体育授業では、すべての児童に学習を保证する必要があります。

もちろんシュートで得点を取ることだけが学習ではありませんが、単元の序盤・中盤にシュートをした上で、終盤では自分に向いているプレイをすることと、まったくシュート機会がない（チームの暗黙の戦略上、機会が与えられない）ことは異なるかと思いますが、シュートの機会がないまま単元が終了してしまうという事態は避けなければなりません。このような事態を回避するためには、ゲームの修正に加えて、単元時数を長く確保することや、チームの中で技能下位児が肯定的に支援される関係づくりが求められるでしょう。

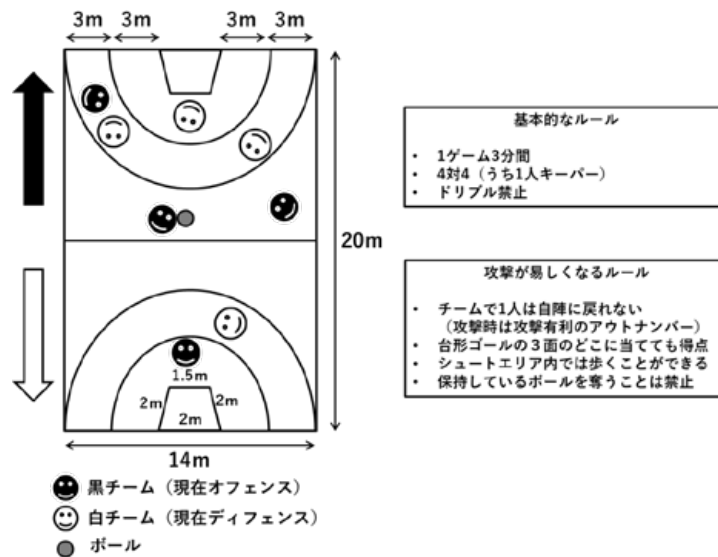


図1 小学校6年生を対象としたハンドボールのルール（奥村・岡出，2020）

4. 授業と競技の垣根を越えて

拙稿をお読みの方はハンドボール関係者が多いと推察しますが、このゲームは「ハンドボールである」と言えるでしょうか？ 私がハンドボール関係者にお願いしたいのは、体育授業で行われるゲーム修正に肯定的であっていただきたいということです。前述のように、体育授業では、学習する内容に応じて児童生徒が取り組みやすいように用具やルールが変更されます。現在、小学校ではよくゲーム修正が行われていますが、学習指導要領の改訂で今後は中学校、高校でもゲーム修正が行われるようになっていくことが予想されます。それをどうか「本物のハンドボールが行われなくなっていく」ではなく「ハンドボールに好意的なイメージを持つ人が増えるかもしれない」と捉えていただきたいと思います。

加えて、修正されたゲームを経験してきた児童生徒が、学校を卒業してからハンドボールをしようとした際に、「正規ルール」のハードルが高いのは課題であると考えます。例えば、サッカーであればフットサル、バレーボールでいえば9人制バレーボール、野球でいえばソフトボール、バスケットボールであれば3x3、アメリカンフットボールであればフラッグフットボール、ラグビーであればタグラグビーのように、類似の技術や戦術構造を有しながら、運動量を落としたり技術を簡単にしたりして成人してから比較的気軽に楽しむことのできる種目は多く実施されています。

これらに相当する種目がハンドボールにもあれば、体育授業でハンドボールを経験した人が、卒業後にもやってみようとなりやすくなるのではないのでしょうか。例えば、ハンドボールではハードなフィジカルコンタクトが魅力の一つですが、競技未経験者からすれば参加へのハードルを高めてしまうと考えられます。これを低減させるために、人数を減らしてディフェンスのギャップを広げ、接触しにくくすることは一案です。それに伴ってコートを狭くしてもよいでしょう。また、握りやすく、キーパーが当たっても痛くないボールを採用してもよいかと思います。

このような種目が開発され、大会が開催されるなど普及が進めば、翻って学校の体育授業でもその種目をベースにしたルールで実施でき、児童生徒が「これはホンモノのハンドボールではない」と思うことなく、授業を受けることができると考えています。ハンドボール協会には、ハンドボールの魅力を残しつつ、学校内外で気軽に楽しむことのできる種目の開発と普及を期待したいと思います。

文献

奥村拓朗・岡出美則（2020）ゲームパフォーマンスの評価を踏まえたボール運動系授業の改善策の検討：小学校6年生のハンドボールを対象として。日本体育大学スポーツ科学研究，9: 1-11.

本稿は、国際ハンドボール連盟（IHF）の公式ホームページに掲載されたニュースの一部をピックアップしてご紹介するものである。

今回は1月13日～31日にかけてエジプトで開催された男子世界選手権の話題を中心にご紹介する。

世界選手権開催中はIHF公式ホームページにて予選ラウンドから各試合のニュースおよび日ごとの結果のまとめが報じられていた。もちろん日本の試合も例外ではない。

ニュースを読んでいくことで、世界が日本をどのように見たのか、その一端を知ることができると思う。

1月15日：日本がクロアチアを相手に歴史的引き分け

日本中のハンドボール関係者が沸いたであろうクロアチア戦は、「クロアチアが辛うじて引き分けに持ち込んだ試合」として紹介された。

試合経過の中では岩下祐太の好セーブや東江雄斗のゴール量産が特に強調して伝えられている。

「この結果は我々にとって歴史的なことで、信じられないほど幸福だ。非常に誇りに思う」という日本代表ダグル・シグルドソン監督のコメントと、「今日は打撃を受けたが、これがハンドボールだ。勝ち点を獲得することができて幸運だった。トーナメントは続く」とのクロアチア主将 Duvnjak のコメントで記事は締めくくられている。

1月19日：日本 メインランド進出決定

日本が24年ぶりのメインラウンド進出を決めた、予選ラウンドのアンゴラ戦の結果も歴史的出来事として取り上げられた。日本が一時リードを広げながらもアンゴラの肉薄・逆転を許し、最後は振り切ったことが伝えられている。

シグルドソン監督のコメントとして「リードを守ることに少々注力しすぎたので、もう少し積極的に攻撃するべきだった」「信じられない試合だった。良い試合をしてくれたアンゴラに感謝したい。5点差を詰められた時にはプレッシャーを感じた。引き分けでもメインラウンドに進めるとは分かっていたが、我々は勝利に値すると思った」との内容が紹介されている。

1月19日：土井「奇跡のようでした」

日本のメインラウンド進出に呼応してか、日本代表の土井レミイ杏利主将をフィーチャーした記事も掲載されていた。

膝の怪我により一度はハンドボールのキャリアを終えながら復活を果たしたことやその後の球歴、この世界選手権そしてオリンピックへの思いが、彼自身の言葉とともに詳細に述べられている。さらに、彼が「世界選手権に参加している選手の中で、TikTokにおいて最も人気のあるハンドボール選手である」として、TikTokの彼の投稿動画も併せて紹介されるという異色の記事である。

1月31日：IHF Hassan Moustafa会長、IOC Thomas Bach会長 世界選手権を終えてのコメント

閉会式におけるIHFのHassan Moustafa会長の言葉もちろんニュースとして取り上げられた。「私たちは成功した。このイベントの開催を受け入れ尽力してくれたエジプト政府に感謝する。」

同じ日付のニュースとしてIOC Thomas Bach会長のコメントも掲載されている。「IHFは最高のパフォーマンスを発揮した。彼らはこのパンデミック下において安全で健康的に素晴らしいスポーツイベントを開催するための模範を示した。これにより、オリンピック運動自体に自信をもてるようになる。したがって、国際ハンドボール連盟に感謝する。今年7月23日に開催される東京オリンピックも、この経験から恩恵を受けることができるはずだ」とのメッセージを発した。

ちなみに、IHFのSNSアカウントでは、世界選手権開催中、連日のようにダイジェスト動画が投稿されており、それでも世界のスーパープレーの数々を楽しむことができた。関心のある方にはフォローされることをおすすめしたい。

2020年度 第3回理事会

日時：2021年2月13日（土）13:30～17:00

場所：Zoom ミーティング

議題：

【審議事項】＝以下、16項目を承認

1. 日本リーグの独立に伴う事業・資産譲渡について
2. 臨時評議員会の招集について
3. 指導教本プロジェクトに関する事業追加について
4. 男子ジュニアアジア選手権への男子U-21代表派遣中止について
5. 男子ユースアジア選手権への男子U-19代表派遣中止について
6. アスリート委員会発足について
7. 2021年度専任コーチ等の人選について
8. 競技関連諸規程の改定について
9. 公認審判員規程の一部改定について
10. JSC助成事業における理事以上の役員に対する謝金について
11. JHAビジョン・ミッションについて
12. 2021年度事業計画（案）について
13. 2021年度予算書（案）について
14. スポーツ団体ガバナンスコード自己評価の開示について
15. 評議員選定委員会委員（案）について
16. 役員候補者選考委員会委員（案）について

【報告事項】

1. 日本リーグからの報告
2. 総務本部からの報告
3. 総務本部からの報告
4. 強化本部からの報告
5. 指導普及本部からの報告
6. 競技・審判本部からの報告
7. 広報マーケティング本部からの報告
8. SNSを活用したアンケート結果について
9. 新会員登録システム（マイハンドボール）について
10. eラーニングを活用したコンプライアンス研修について

2020年度 全国理事長会

日時：2021年2月14日（日）13:30～16:30

場所：zoom ミーティング

【報告事項】

1. 日本協会報告
 - 1) 強化報告（世界選手権・オリンピックに向けて）
 - 2) JHAビジョン・ミッションについて
 - 3) 2021年度事業計画について
 - 4) 2021年度予算について
 - 5) 新会員登録システム（マイハンドボール）について
 - 6) 日本リーグの独立について
 - 7) 各本部からの報告
 - ① 総務本部
 - ② 指導普及本部
 - ③ 広報マーケティング本部
 - ④ 競技・審判本部
2. 意見交換

 OSAKI



mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。



限られた資源だから、有意義に使っていききたい。

命あるものたちが共存する地球だから、

快適な環境を守っていききたい。

計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、

ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、

つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア TEL.(03)3443-7171(代表)